

学校だより

Vol. **95**

2013.11



Contents

- 02 校長 入学式辞
- 04 三主事・専攻科長あいさつ
- 05 各科の近況
- 08 インターンシップ報告
- 15 国際会議で何を学び、どう考えたか
市民向けの放射線測定
- 16 一日体験入学を終えて
- 17 学生の活躍・
クラブ活動等の結果
- 21 部活・サークル活動紹介
- 23 新任教職員紹介
- 25 ミニ研究発表会
- 26 校内体育大会
- 27 全国高専体育大会



福島工業高等専門学校

第52回 入学式

第52回入学式 及び 平成25年度編入学式 並びに 第10回専攻科入学式式辞

福島工業高等専門学校長 奈良 宏 一

新入学生208名、留学生1名を含む編入学生5名、専攻科生30名の皆様の福島高専へのご入学をお慶び申し上げます。誠にありがとうございます。

また、ご列席の保護者の皆様、お子様のご入学を心からお祝い申し上げます。

例年に無く雪が多かった冬が過ぎ、春の暖かさを感じる季節になりました。本校校内の桜の木も、春を待ちかねるように開花し始めました。その花の下で、本日、多数の新入学生諸君を福島高専に迎えますことを、教職員、在校生一同、大変喜ばしく存じております。

皆様が入学した福島高専は、昭和37年、国立工業高等専門学校の第一期校として、他の11の高専と共に創立されました。本日入学した皆さんは本校への第52回目の入学生になります。平成16年にすべての国立高専が一つの独立行政法人「国立高等専門学校機構」として法人化され、今年でちょうど10年目になります。現在、福島高専を含む51の国立高専が55のキャンパスで運営されています。この間、本校から、およそ7400名の創造性と実践性を併せ持つ卒業生・修了生が巣立ち、さまざまな産業分野で活躍しています。本日、入学した諸君も地域の震災からの復興と新しい日本の創成のために、先輩達に負けずに活躍ができるよう、本校でしっかりと勉学を積み重ねて下さい。

福島高専では、皆さんが勉強するにあたり、教育理念、学習・教育目標、養成する人材像、卒業時に身につけるべき能力などをきめ細かく定めています。

本校の教育理念の第一は「広く豊かな教養と人間力の育成」です。福島県は福島第一原子力発電所事故で大きな被害を受けています。この事故の後、一時、日本の技術者や科学者の信用が失墜しました。本日、入学した皆さんの多くは、将来、技術者となりますが、技術者は、自らの技術力で作りあげた製品が社会にどのような影響を及ぼすのかわ知らねばなりません。自分は何をすれば良いのか、何をしたいのかを判断できるだけの教養と倫理観を身につけている必要があります。本校の教育理念の第一は、技術以前に、幅広い教養と人間力を養うということです。

教育理念の第二は「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」です。あらゆる産業がグローバル化した現在、日本が工業立国を維持していくためには、優れた人材と優れた技術力によって、新しい技術を創造し続けていかねばなりません。専門基礎力と実践的実験・実習の学習を重視して、皆さんには、創造性と実践性を兼ね備えた新しい産業を起こしうる人材に育ってほしいと思っています。これが教育理念の第二です。

第三は「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。グローバル化した社会では、文化が違う人々とコミュニケーションできる能力が重要です。異なった環境に住む人々の考え方を理解したうえで、相手に尊敬の念を抱きながら情報交換できるだけの知識と教養を身につけてもらうことが、教育理念の第三です。

このような教育理念の下に6項目の学習・教育目標を定め、さらに、個々の目標の具体的な項目を掲げていますので、明日以降、担当の先生などから詳しく説明を聞いて下さい。

本校の専攻科までの工学系カリキュラムである「産業技術システム工学」プログラムは日本技術者教育認定機構（英語表記の頭文字を並べてJABEEと呼んでいます）から世界水準の大学教育プログラムであることが認定されています。したがって、本校の本科5年間のカリキュラムも、JABEEの基準の下で構成されています。カリキュラムにそっ



て、安心して勉強に励んでください。本日入学したコミュニケーション情報学科の学生も、専攻科まで勉強すればJABEEの認定を受けることが出来る予定ですので、ぜひ、専攻科への入学も視野に入れて勉強して下さい。

さて、これからの5年間、皆さんは次の4つの点を念頭において勉強して下さい。

まず、第一に、学校で定められた規則・規律を守り、皆が学校で快適に生活できるように努力して下さい。

第二に、授業で教えてもらうのではなく、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを授業で質問して確認する姿勢を保って下さい。皆さんは、目的を持ってこの福島高専に入学してきたはず。社会に出て専門分野で活躍したい、または、大学や大学院に進学してさらに専門分野を磨き上げたいなどの目的を持っているはず。その目的に向かって自ら学習する姿勢を保って下さい。皆さんは優秀な学生ですので、中学校では受動的に授業に出てさえいれば授業について行けたかと思います。しかし、高専では、自宅に戻ってから予習や復習を行わない限り、勉強についていくことは困難です。勉学の動機を失わずに、目標を決めて能動的に勉強をして下さい。

第三に、課外活動を楽しんで下さい。文化部やスポーツ部に所属し、集団や組織での活動能力やコミュニケーション能力を身につけて下さい。

第四に、何でも語り合える友人を作して下さい。高専在学中の友人やクラスメートは一生の友人になりますし、クラブ活動や友人によって皆さんの人間力が育くれます。

本日、入学した皆さんには、卒業後にさまざまな進路があります。5年間の課程を終えて準学士の称号をもって就職することもできますし、専攻科に進み、大学卒と同じ学士の学位を得ることもできます。また、大学の3年生への編入学の道もあります。普段から、保護者と相談して自分が進む先を見据えながら、夢と希望を持って、これからの勉学に励んで下さい。

次に、専攻科への入学生諸君。諸君は、本科5年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。専攻科2年の課程を終え、学位試験に合格すると、大学評価・学位授与機構から大学卒業と同じ学士の学位を得ることが可能です。この3月に卒業した専攻科第八期生23名は、全員、学士の学位を授与されました。

東日本大震災から早くも2年が過ぎましたが、福島高専では、震災や津波からの街の復興、並びに、福島県が目指す原子力依存からの脱却と再生可能エネルギーによる産業振興の支援のために、減災都市、原子力安全及び再生可能エネルギー発電の三分野で、教育・研究を行うべく、今年度から専攻科に復興人材育成特別コースを設けて、学生定員を5名増員しました。今年度は、この5名の定員に対して、15名の専攻科入学生がこのコースを希望してくれています。皆さんの地域復興にかける思いに敬意を表します。東日本大震災による被害を、身を以て経験した諸君ですから、復興人材育成特別コースを選択するか否かにかかわらず、専攻科で自らが学んだ知識をもって、どのように地域復興に貢献できるかをイメージしながら勉学に励んで下さい。また、グローバル化の時代にあって、国際感覚を身につけることは必須です。ぜひ、海外インターンシップなどにもチャレンジしてください。さらに、最近の産業分野では、工業技術の大型化・高度化によって修士レベルの能力も必要とされています。これらのさまざまな観点から将来の自分を考えて、学習計画を立ててください。専攻科生として十分な知識と教養を身につけられるよう、また、後輩の良き手本となるように日頃から勉学に励んで下さい。

最後に、新入学生諸君全員には、日々健康に気を付けながら、勉強努力し、本校を巣立つまでに、大きく成長して、社会に、大学に、大学院に進んでいけるよう祈念して式辞と致します。

教育の質の保証

教務主事
青 柳 克 弘



高専の教育は、早期からの一貫した集中的な技術者・職業人教育、エンジニアリングデザイン教育、課外活動や学生寮の生活を通じた人間力の育成等の特徴があり、これまで高い評価を受けてきています。さらなる期待に応えて国際的に活躍できる技術者・職業人の育成、イノベーション人材の育成、融合複合分野への展開等による高度化を図ることが課題になっています。そのためには教育の質の保証が必要と言われており、本校でも、平成18年度に工学系2専攻と4学科による教育プログラム「産業技術システム工学」がJABEE（日本技術者教育認定機構）による認定を受け、平成24年度には継続認定されました。また、平成19年度には大学評価・学位授与機構による機関別認証評価の認定を受け、来年度に2度目の評価を受けることになっています。さらに、最近では、国立高専機構が策定したモデルコアカリキュラムに対応した新カリキュラムを検討しております。しかし、教育システムがいかにかかりしていても、学生がそれに対応できなければ何の意味もありません。学生にはいかなる状況下でも学校の授業を軽視せずしっかり勉強して、付け焼刃ではなく本物の力をつけるよう期待しています。

「人材養成」と「ひとづくり」

学生主事
宮 澤 泰 彦



いかに科学が進歩し、学問が細分・深化されようとも、学校とは結局のところ「ひとづくり」の場であるという現実には、疑問の余地はなкаろうと思うのです。

近年の情報技術の革新は、まさに私どもの「生育環境」を激変させてしまいました。仲間と場を共有しつつも、個々に没入するのは手にするゲーム機であったりします。

かつては、幼時より山川草木に季節の営みを見出し、水遊びや砂遊びに流体・波動の特性を体感し、木登りに重力法則を感得しバランス感覚を養ったものです。また雑多な友との交流を通じ、自己主張や社会性、協調性を培ったものでした。長じての演繹的学問は、経験を帰納的に整理する術として納得ゆくものとなりました。

いにしえより「知」「徳」「体」の三育が尊ばれ、また「知」「情」「意」を兼備した人格陶冶を是とする伝統もございました。産業界の要請に即応した人材養成こそが急務と心得るあまり、ともすれば「ハード・サイエンス」の知育に傾きがちな本校の特殊性を鑑みつつも、ささやかな問題提起を続けてまいりたいと思っています。

寮の近況報告

寮務主事
鳥 居 孝 栄



震災で崩れた建物の修復は、完了しましたが、大震災の影響で耐震基準が上がったため、曉棟とこずえ棟の改修が必要になりました。まず曉棟から実施することになりまして、夏休みから約半年間工事に入ります。この間、曉棟を空けなければなりませんので、各棟の空き部屋の利用はもちろんですが、こずえ棟の1階が女子、2階が男子と住み分けたり、合宿センターを利用したりして、対応することになりました。

また震災後の寮の行事の見直しということで、今年もまた、新舞子ウォークに代わる新入寮生の歓迎行事を模索しました。昨年は運動会を実施しましたが、雨の心配がありますので、晴天の時でも雨天の時でも対応できるような行事をとということで、今年はカレー作り大会を実施してみました。結果は非常に好評で、用具も揃いましたので、来年度以降も、この行事を継承発展させていきたいと思っています。

曉棟の改修以外にも、生活環境・施設設備の整備改善は今年度も進めていきます。特に昨年の冬、暖房が弱い部屋がいくつかありましたので、その改善と、男子浴室のシャワーの改修を行う予定です。

専攻科の近況

専攻科長
大 槻 正 伸



今年度は、専攻科には1年生31名、2年生20名が在籍し、勉学、研究に励んでおります。

1年生は、7月の第1回特別研究発表会で、各自今後の研究の方向について発表しました。また今年度は、海外インターンシップに行く学生が飛躍的に増加しました。フランス9名、中国2名、中東2名、オーストラリア1名です。逆に海外からの学生受け入れは、この4月～6月の3カ月間フランスの学生を1名、9月からは5カ月間の予定でフィンランドの学生を1名受け入れております。今後も国際交流の機会が増えますので、多くの専攻科生が海外インターンシップを経験して視野を広めてほしいと思います。

2年生は9月中旬に全員学位授与機構に提出する学修成果レポート等の書類を整備しました。12月に学位小論文試験がありますが今年度も全員の学位取得を目指します。なお今後に向けて、学位小論文試験なしで、学校で一括しての学位申請、取得ができる方式について高専機構での検討が進んでいます。

さて、今後専攻科はH27年度の改組（2専攻、5コース制）にむけて様々な検討、調整を行っていく予定等もあり、新たな取り組みをしつつ教育・研究の充実にむけて取り組んでまいります。

各科の近況 [本 科]



一般教科の近況

一般教科長 鈴木 三 男

大震災から2年半が経過し、薄らぎかけた記憶を呼び戻すように、時折大きな余震もありますが、学生たちが授業に課外活動に明るく元気に頑張っている姿を目にすると、以前の活気が学校に戻ってきたと感じております。

さて、教員の異動についてご報告いたします。平成24年度末をもって、英語科の西山公紀先生が定年のため、体育科の秋山秀博先生がご健康上の理由のためあと3年を残して、退職されました。お二人には学生主事という本校の重責を担って頂き、学生指導にご尽力を頂きました。

また、社会科の木原淳先生が富山大学にご栄転されました。一般教科として残念でありませんが、先生方の今後のご活躍をお祈りするところです。

代わって、この4月から木次谷聡先生（体育科）が赴任され、すでに授業でもまた課外活動でも熱心に学生をご指導して頂いております。また、本田崇洋先生（英語科）・大岩慎太郎先生（社会科）が10月に着任しました。教科教育・学生指導に強い情熱をお持ちで、これからの活躍が期待されるところです。

一般教科は専門教育を支える基礎的能力を養うことを目標としており、教員一人々が授業に課外活動に日々努力を積み重ねております。



機械工学科の近況

機械工学科長 高 橋 章

今年度の5年生の進路は、15人が進学希望で、このうち東京工業大学1人、長岡技術科学大学2人、埼玉大学1人、茨城大学1人、首都大学東京1人の6人が大学編入学合格、7人が本校専攻科に合格しております。残りの2人は専門学校入学の受験を予定しています。また、22人が就職希望で、9月末時点で20人の就職が内定しております。全員の進路決定は、もう少し先になりそうです。

ところで、今年4月に着任された新しい先生方を御紹介します。まず、昨年度末に定年退職された渡辺敏夫先生の後任として、新潟産業大学から小出瑞康先生をお迎えすることができました。小出先生の担当科目は、工業力学や機械力学、工学実験などです。バレーボール部の指導教員もされております。

それから、工学院大学に移られた平尾先生の後任に、寺田耕輔先生をお迎えすることができました。寺田先生は、日立造船㈱や日産自動車㈱を経て、当学科に着任されました。寺田先生の担当科目は、塑性加工学（専攻科）や設計製図、工学実験などです。また、ロボット技術研究会の指導教員もされております。

2人の先生方には大いに活躍していただけることと確信しております。



電気工学科の近況

電気工学科長 春 日 健

平成25年度も半ばを過ぎましたが、電気工学科では昨年度から今年度にかけて、教員の異動があり、本年度より2年間、豊島晋先生が人事交流で兵庫県の明石高専に移られました。

来春卒業予定の5年生29名在籍のうち、26名の進路が決定しております。進路決定者のうち10名が大学等への進学者で、その中の5名が本校専攻科へ進みます。

4年生は夏季休業中に短い期間ではありましたが、各企業でのインターンシップを体験してきました。実社会を一足早く学べたことは、それだけでも意味のある経験だったとの報告がありました。早期に将来の準備に取り組んでもらいたいと思います。

アイデアを出しあいチームを組み、一つのテーマに取り組むモノづくりは、夏季休業中も切磋琢磨をしながら頑張ったみごとな出来栄でした。

さらに9月開催された校内体育大会では、見事電気工学科が総合優勝、一致団結して有終の美を飾りました。

後期の日程として、学科・学年行事や磐陽祭があり、学生たちは勉学や部活動とあわせて忙しくなりますが、柔軟な頭脳と体力で全力を発揮してほしいと願っております。

最後に、電気・電子・情報を3本柱とした電気工学科の教育内容をますます充実させていくとともに、人間力が養成できる授業や実験を目指して教職員一同努力してまいります。

各科の近況 [本 科]



物質工学科の近況

物質工学科長 天 野 仁 司

物質工学科では、今年度になりましてから多くの分析・測定機器が導入され、それに伴いまして、学生実験等の改変も進めています。以前から本学科では、生物・物質のどちらのコースを選択しましても、化学系の企業や大学で使用される一般的な機器のほとんどを実習する科目が4年生までに提供されていますが、それに加えて、希望すれば課外活動や、2年生のミニ研究で、低学年からこれらの機器を使用した研究活動が指導教員の下で行えます。これはまさに高専の他に類を見ない実践教育といえるでしょう。

9月に行われましたミニ研究の発表会には、学校訪問で来校していた草野中学の生徒さんたちも参加され、「自分たちも福島高専に入学して、このような研究をしてみたい」と意気軒昂な感想を伝えてくれました。これは、物質工学科の学生諸君をはじめとする本校の2年生が、探究心あふれる研究発表をしていたからだと思います。

教職員では、12年間勤務された伊藤正義先生が退任されました。本校では、企業でのご経験をいかして、無機化学を中心に教鞭をとられました。後任には、住友化学株式会社で研究開発のご経験のある田中利彦先生が着任されています。



建設環境工学科の近況

建設環境工学科長 緑川 猛彦

昨年度に引き続き学科長を拝命しております。よろしくお願い致します。まず、建設環境工学科の教員団についての近況をご説明致します。平成18年4月に赴任された金子研一先生が平成25年3月を持ちまして定年退職となりました。金子先生はゼネコンから福島高専に赴任され、ご専門は都市トンネルでした。授業では施工法、建設経営学、建設環境法規等の主に実務関連を担当されていました。高専の教育にとって実務経験を教える事は重要であると思われませんが、金子先生のような現場経験を有する教員が徐々に減ってきていることを危惧しています。金子先生の後継として、昨年度任期付で採用された林久資先生が常勤教員として再任用されました。林先生には、昨年から継続の測量関連の授業とともに施工関係の授業も担当して頂いており、大変ご苦労されている所です。

その他は昨年と同様で、育児休暇中の田村綾子先生を除いた9名で授業を行っています。また学生の動向についてですが、相変わらず女子学生の人気が高く、今年の1年生は42名中13名が女子学生で、建設環境工学科全体では202名中66名が女子学生です。就職・進学状況については例年通り順調ですが、進学希望者が就職希望者を上回りました。福島県職員やいわき市職員等の地方公務員において「高卒程度」より「大卒程度」を多く採用する傾向が続いていることが、進学希望者の増加に関係しているのかもしれませんが、大手ゼネコンからの求人も少なからず有るのですが就職希望者の減少に伴い辞退している状況です。最後に、建設環境工学科棟の改修についてお知らせします。最近の傾向として学生の自学自習を促すスペースを校内に確保する事が推進されていますが、校長および事務部長のご功勞により建設環境工学科棟でもようやく実現することになりました。4月から改修が始まり11月末には新しい校舎で勉強ができることとなります。改修により教員研究室の前が自習スペースになりますので、放課後等学校で勉強がし易くなります。有効に活用して頂き、益々勉強に励んでもらいたいと思います。

以上のように、学科全体としては順調ですがこれも学生が優秀であるおかげです。良い学科であるよう建設環境工学科教員一同取り組んで参りますので、ご家庭におきましてもご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。



コミュニケーション情報学科の近況

コミュニケーション情報学科長 渡 部 美紀子

コミュニケーション情報学科では、今年も41名の1年生を迎えました。すでに半年を過ぎ、日々の学校生活に馴染んできたところです。卒業学年である5年生も、順調に進路を決めています。4年制大学への編入試験はこれから本番ですので、余すところなく力を発揮して頑張ってくださいと思います。

当学科は今年で設立満20年を迎えました。たくさんの卒業生が、広範な分野や地域で活躍してくれています。これまで在校生が高い評価を頂いて進学・就職して来られたのも、卒業生のみなさんのおかげです。毎年、いろいろな折にさまざまな都府県に散らばっている卒業生が来てくれて、近況を報告してくれます。ひとりひとり違う道を歩いていますが、みなコミュニケーション情報学科での経験を糧として羽ばたいてくれている様子をとても嬉しく思っています。秋は磐陽祭などもありますので、また顔を見せに来てください。

これからますますコミュニケーション情報学科の知名度を高めるため、在校生の皆さんにもさらに励んでもらいたいと思っています。

各科の近況 [専攻科]



機械・電気システム工学専攻の近況

機械・電気システム工学専攻長 鈴木 晴彦

平成25年度より、専攻科に「復興人材育成特別コース」が開設されました。機械・電気システム工学専攻に入学した12名の新入生のうち5名が、この特別コースの履修登録をして、新たな勉学に励んでいます。第2学年の8名と合わせ20名の在籍となり、今年度の専攻科の授業をスタートしています。

さて、本年度の専攻科生のインターンシップの特徴は、海外でのインターンシップに参加した学生が、全専攻で14名と大幅に増えたことです。そのうち本専攻からは、フランスのIUT（技術短期大学）へ3名、中東の日本企業へ1名、中国の日本企業へ2名が、約3週間から2カ月の国際インターンシップに出かけました。また、海外から2名の学生（フランスIUTカレー、フィンランドのヘルシンキ応用科学大学）を受け入れました。来年度も同様な派遣と受け入れが実施されると思われますので、国際感覚を身に付ける良い機会が専攻科学生を中心に与えられることになります。

一方、2年生の就職活動も幸い順調に進み、就職希望者全員が内定を頂きました。内定先は、日立製作所、キヤノン、シーメンス・ジャパン、D&Mホールディングス、また地元企業では古河電池、常磐共同火力、クリナップ、品川通信計装サービスであります。今後は12月の学位試験、そして特別研究の仕上げと、更なる活動が続きます。



物質・環境システム工学専攻の近況

物質・環境システム工学専攻長 車 田 研 一

今年度初めに田中利彦先生（化学分野）、林久資先生（土木工学分野）に新たにスタッフとして加わっていただきスタートをきりました。2年生は後期開期をまたずして各自の修了後の進路が確保できました。これもひとえに各人の努力のたまものと思います。また、今年度は本専攻内だけでも1年生のほぼ半数の6名が海外でのインターンシップを経験しています。10月下旬には土木工学分野担当の緑川、菊地面先生がフランス・アルトワ大学傘下のベテューヌ科学技術大学での日仏エクステンジ・プログラム計画検討会議に出席します。ふりかえると、震災からの体制のたてなおしは並々ならぬ苦心の連続で、もちろんいまなおきびしい辛抱が続いている部分も多々あります。文字どおり「牛歩」ですが、それでもとぎれずに修了生をだし、また、新入生を迎えながらなんとかここまでこられたことには、きつとなにがしかの意味があろうと信じたいところです。むろん当専攻科学生の海外研修おくりだし、および昨年からののべ4名の欧州からの研修学生うけいれは専攻科業務の一端にすぎません。しかし、2年半前の人心のゆるぎとその後もかたちを変えながらも延々と続くさまざまな苦心のたねをひりひりと想いかえすと、よくなんとかここまでこぎつけたと思います。これからもできるだけ平生に学生諸氏と勉学に励むのみです。



ビジネスコミュニケーション学専攻の近況

ビジネスコミュニケーション学専攻長 渡 部 美紀子

本専攻には、平成25年度、1名の留学帰国者を含め7名の1年生が在籍しています。2年生5名と合わせて計12名で本年度の授業がスタートしました。

今年の1年生のうち2名が、インターンシップでフランスのカレーに行きました。2ヶ月の長期に渡るインターンシップは今年が初めてになりますが、時折様々な状況に立ち向かいながらも奮闘している様子を報告してくれています。10月末に帰国する彼らによって語られる経験談は、来年以降、海外でのインターンシップを考えている後輩たちにとっても参考になることでしょう。そのほかの1年生もいわき市内などでインターンシップを体験し、貴重な社会経験となったようです。

また本年度の2年生も順調に内定をいただいています。就職希望者のうち、2名は民間企業に、2名は公務員として内定をいただいております。小論文試験や最終発表等、これからも2年生にとって気の抜けないイベントが続きます。7年間の学校生活を、有意義なものとして締めくくって欲しいと思っています。

インターンシップ報告

本校では、4年生と専攻科1年生に、校外実習・実務研修などの科目を設定し、企業などの協力を得て、インターンシップを実施しています。校外、実務の場に身を置くことで、技術者の役割を認識すること、学校で習得している知識が実社会でどのように活用されているかをそれぞれの学生が理解することを目的としています。

本校では、こうした経験を今後の学習に活かし、社会人として必要とされる知識などを卒業までに身につけるように、教育と指導を行っています。

京都大学インターンシップで学んだこと

機械工学科4年 関根 健恭

今回のインターンシップの目的は、エネルギープラント用構造材料の性質を実験や講義を通して学ぶこと、そして最先端の施設や装置に触れ、エネルギー材料研究の最前線を体験することである。内容としては、エネルギープラント用構造材料は高温の燃焼環境にさらされるため、高い耐酸化性・耐食性が必要であるという背景から、金属の高温酸化試験を行った。

具体的な実験としては、酸化前後の外観撮影、重量測定、マイクロビッカース硬さ試験、FIBIによる酸化鉄の断面の観察、FE-EPMA・FE-SEMによる表面、断面の形態観察・分析などを行った。

まず試験に用いた機械について説明する。SIMとは、イオンビームを試料に照射させた時に飛び出してくる2次電子を測定することにより試料表面の様子を観測する



方法である。今回は、集束イオンビームを用いてエッチングをした試料を、同じ装置でSIM像を観測すると

いう方法で用いた。FE-EPMAとは、電子線を照射して試料表面から発生した特性X線の波長から、各元素の含有量を測定するものである。FE-SEMとは細く絞った電子線を真空中で試料上に二次元的に走査し、試料表面から放出される二次電子等の強度を画像として得る装置である。

実験は次のような流れで行った。材料はFe、SUS430、F82Hを用いた。まず酸化前の外観撮影、重量測定を行った後、マッフル炉を用いて700℃で10時間という設定で酸化させた。次に酸化後の外観撮影、重量測定を行い、断面観察のため試験片を2つに切断し、片方でビッカース硬さ試験を行い、もう片方を樹脂に埋め込み研磨した。研磨した試料はSEMやEPMAを用いて観察した。

以上のような実験を行った結果、次のようなことがわかった。純鉄は酸化すると表面に2層の酸化膜が形成され、硬くなる。また純鉄は酸化しやすく、F82H・SUS430はほとんど酸化しない。

これらの体験を通して、正確に実験を行うことの難しさ、実験結果から考察することの重要性を学んだ。また最先端の装置に触れ、その仕組みを理解するにあたり、自分の力不足を再認識した。

原子力取扱実践講座を受講して

機械工学科4年 松本 武尊

今回私は、インターンシップの一環として、3日間の原子力・放射能関連実習を行った。

1日目の午前は、放射性廃棄物の処理と処分について、また原子力発電に必要な材料の特性について、そして放射線量測定に関する講義を行い、午後に土壌の放射線量測定、引張り試験での微小試験片による強度特性評価の実習を行った。

2日目は福島市にある原子力研究開発機構笹野分析所へ移動し、サーベイメータによる環境放射線測定、ホールボディカウンターによる内部被ばく測定などを行い、帰りに2か所のパーキングエリアで空間線量を測定した。

今回の実習では原子力の基礎を学び、理解を深めるのに役立った。私は大洗にある原子力研究開発センターで、4日間原子力について学んだ後だったので、復習となる講義もあれば、引張り試験など、新たな知識を得る講義もあったので、大洗にある原子力研究開発センターで

のインターンシップと合わせて受講してよかったと思う。また、講義を受講していく中で、原子力に対する

考えが変わっていったのも自分の中では大きかった。やはり、正しい知識を身につけるといのは物事を根本から理解する上で大事なことなんだと思った。今、世間では反原発派の人が多く、感情だけで原発を廃止にしているとしている。実際今は化石燃料に頼ってもいいかもしれないが、将来的にエネルギーが枯渇したらどうするのか。今の子供たちのために原発を廃止するという考えなら、逆に今の子供たちのために原発の技術を確立してあげるべきじゃないかと考えた。



インターンシップを終えて 電気工学科4年 金丸 允駿

私は今年の夏休み、泉電設株式会社で5日間、インターンシップをさせていただきました。

泉電設は電圧の中でも特に高い電圧である特別高圧受変電設備を設置する工事や、点検保守業務を主とした事業を行っている企業です。

その中で私が今回お世話になったのは、設置工事において関わってくる、営業課、設計課、工事課の3つの部署に配属させて頂きました。

初日は営業課に配属されました。営業課とは泉電設の設備を売る、要は工事の仕事を持ってくる課です。そこでは見積り書をエクセルデータ化する作業と、図書電子の作成をしました。図書電子とは過去に行った仕事について記載されているプリントをコピー機でスキャンしてパソコンで閲覧できるようにすることです。

2日目と3日目は設計課に配属されました。設計課では工事内容の図面化をCADというコンピュータ設計ツールを使って作業する課であり、そこで私はCADを使っている小屋の



図面を描く作業をしました。

残りの2日は工事課に配属されました。工事課では設計課で作成された図面を基に作業を行ったり、指導を行ったりする課です。工事課での初日は電気を送電するケーブルをつなぐ箇所をまとめる制御線配線表の作成とその作成した内容をエクセルデータ化する作業と、電気が来ている箇所と、来ていない箇所を分ける充電範囲図の色分け作業をしました。

最終日は茨城県にある日立工機の佐和工場の変電所設備を構成している部品の説明を受けながら見学しました。

今回のインターンシップでは、仕事に対する責任や挨拶を含む周りの方々とのコミュニケーションを上手にこなすことの重要性について学びました。この経験を今後の生活や、将来に生かしていきたいと思っています。

最後に、多忙の中、実習の機会を与えていただき、お世話していただいた泉電設の皆さんに感謝いたします。



インターンシップで学んだこと

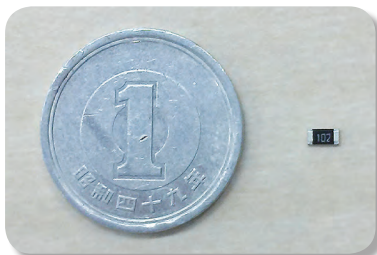
電気工学科4年 川崎 裕幸

私は今回4年次のインターンシップにおいてキャノン株式会社に行ってきました。私自身初めてのインターンシップということもあり、とてもいい経験を積むことが出来ました。

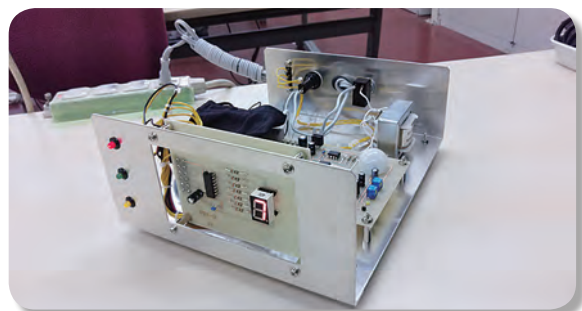
私が今回行ったキャノン株式会社は、キャノン製品の研究・開発・生産及びグループ本社機能を担当しています。

今回のインターンシップの実習内容として、私は「電子機器組立てコース」に参加しました。これはハンダ付けをメインとする作業を行うコースです。

まず私は8月26日にキャノン株式会社の下丸子本社に行き、そこで今回のインターンシップについての説明や、キャノンが行っている事業や、実績、企業理念のガイダンスを受けました。その中で特に印象に残っているのが「三自の精神」と呼ばれる指針です。これはそれぞれ



自発（何事にも自ら積極的に）、自治（自分自身を管理する）、自覚（自分が置かれている状況・立場・役割をよく認識



する）といったものです。その後、キャノンが開発した製品が展示してある「製品展示ギャラリー」を見学し、キャノンの歴史について学びました。27日から29日にかけての3日間は実際にハンダゴテの作業を行い、普段学校では扱うことのない機器を取り扱い、貴重な体験をすることが出来ました。

最終日である30日には高専を卒業してキャノンに就職した先輩社員との交流があり、今後どのようなことを高専でやっていけば就職の際に役に立つかなどアドバイスを頂きました。

5日間という短い期間のインターンシップでしたが、様々な経験をする事が出来ました。今後の高専の実習や就職活動などで役に立てていきたいです。

研究による自己の成長とさらなる課題

物質工学科4年 佐藤 拓末

私は9月17日～9月24日までの5日間、東京工業大学工学部高分子工学科高田研究室にて研修を行いました。

実験テーマは「高分子ロタキサン連結が生み出す動的表面特性の観察」であり、実習では高分子ロタキサンの合成から、接触角による表面特性観察を行いました。

またSR(student review)と呼ばれる学生の論文における問題点や新規の反応機構の検討などを行う研究室全体のグループディスカッションを行ってきました。

実習では、クリック反応を用いてロタキサン連結ブロックポリマーの合成をおこない、MALDI TOF MAS、NMR、GPC(ゲル浸透クロマトグラフィー)を用いて構造

解析し、接触角を測定することで表面特性を調べることができました。

解析することの大切さや、実験装置の大切さというのを再確

認することができました。

また今回の実習でとても印象に残っているのはSRです。研究室全体が一丸となり、今現在直面している実験の課題について話し合うというのですが、高度な話し合いでいろいろな知識を得ることができました。

そして研究というものは知識と経験が基礎を形作っているのだと実感しました。知識がなければ新しい反応を考えることはできませんし、知識だけが豊富であったとしても実験を行うことができなければ何も役に立ちません。またすべて最先端な物質であるため、反応がどのように起こるのかは教科書には書いてあるはずもなく、自分で考えるしかなく、思った時には実験し自分で反応を見る、このように自ら実行し、問題を解決する力というものも大切だと思いました。

今回学んだことや、物事を考える上での考え方などを無駄にせず今後の高専での生活に活かし、さらなる自己のスキルアップに繋がりたいと思っています。

最後に、忙しい中、実習の機会を設けていただき、お世話していただいた東京工業大学の高田先生、および高田研究室の皆さんに感謝いたします。



中国でのインターンシップで学んだこと

物質工学科4年 鈴木 優花

佐藤辰彦様のご支援によって始まった、アジア地区へのインターンシップの募集があったのは昨年とのことでした。将来は海外で働きたいと漠然と考えていたので、良い経験になると思い応募し、今回中国へのインターンシップのチャンスを頂きました。

私は、春休みの約3週間『明電舎(杭州)電気系統有限公司』で受け入れて頂きました。こちらの工場では、主にエレベータ用のモーターなどが生産されています。今回のインターンシップではさまざまな部署を回りながら、主に工場のPR資料の作成およびプレゼンテーション、CADの操作、製品の組立の体験などを行い、その他にも

非常にたくさんの業務を体験させていただきました。

この実習を通して、ものづくりの第一線で働く日本人スタッフ、高い技術や知識を持った中国人スタッフなど、本

当にたくさんの方と出会うことができました。みなさんには社会人として働くこと、国籍の違いの同士の

働くことの難しさや楽しさなど、たくさんのことを教えて頂きました。実際にお仕事を体験させていただく中で、技術だけではなくコミュニケーション能力も必要だということを改めて実感しました。そして、将来外国で働きたいという気持ちがより一層強まりました。

このインターンシップでの体験を大切にしながら、今後の高専生活を送っていききたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中受け入れてくださった『明電舎(杭州)電気系統有限公司』の皆様、中国に行くまでの期間さまざまな面でサポートして下さった先生方、このようなチャンスを与えて下さった佐藤辰彦様、本当にありがとうございました。



大阪ガスのインターンシップを受講して学んだこと

建設環境工学科 4年 今野小百合

私は2011年3月11日に東日本大震災に遭いました。その際にはいつも当たり前に使っていたライフラインが止まり、とても不自由な生活をした経験があります。この経験から、ライフラインがどんなに重要であるのかを実感しました。このことをきっかけに、災害に対してライフラインはどのように対策がとられているのかということに興味を持ちました。大阪ガスは、阪神淡路大震災の被害を受けたことから防災対策に注力しているということを知ったので、その防災対策が実際にどのように行われているのかについて自分の目で見て確かめ、学びたいと思い、大阪ガスのインターンシップに参加しました。このインターンシップに参加することで、社会に出るとはどのようなことか漠然としたイメージしかなかったものが具体的になり、社会に出て仕事をするの大変さを知りました。そして、私が社会に出ることに対する認識が甘かったということを感じさせられました。私はこのインターンシップを通して、防災対策のこの他に社会人として求められていることも学ぶことができました。そのなかで私が一番重要だと思ったことは、コミュニケーション能力です。実際の仕事の現場を見てい



ると、作業内容の説明などの話し合いが必ずあり、周りの人達と協力しなければならないことが多く見られました。私はこのコミュニケーションをとるということは簡単なことのように思っていたのですが、最終日にプレゼンテーションをやることで、ただ話すだけではなく相手にわかりやすく自分の意見や考えていることを伝えることの難しさを知りました。この他の社会人として求められていることは、身だしなみや態度、あいさつ、時間管理、報告や連絡や相談、言葉づかい、メモをとるなどの当たり前のことばかりでした。私はこの当たり前のことが社会人になるうえでいかに大切であるのかを、このインターンシップに参加し、身をもって体験できたことで人間的に少し成長することができました。

インターンシップを終えて

建設環境工学科 4年 高杉 凌平

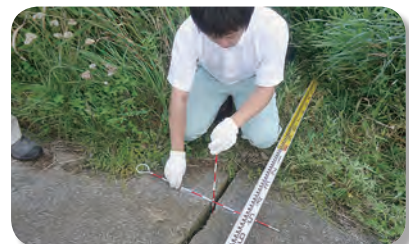
私は、国土交通省北海道開発局釧路開発建設部の釧路河川事務所にインターンシップで3週間お世話になりました。今回の実習を通して学んだことが沢山ありました。釧路市では、自然豊かな北の大地で人々が生きていく為・自然と共存していく為に、歴史をかけて河川の治水・利水を行ってきました。このような仕事は、私達が安心して生活を送ることができていることの一つの理由であると共に、私達が「未来の安心」を作らなければならないというプレッシャーを感じました。

職場の方々は皆優しい人達で、色々な現場を見学させていただきました。特に印象的であったのは、やはり釧路湿原です。湿原の展望台から眺めた景色は、どこか遠い国に居る様な不思議な感覚でした。湿原内を流れる一級河川



「釧路川」をカヌーで下って行った時も、似たような感覚を覚えて

います。湿原の内部では、人々の手で自然を破壊してしまった箇所がありましたが、自然を再



生している箇所も多く見受けられ、自然と共存していくとする“まち”の姿勢に大変心を打たれました。

私はまだ学生のため、社会に出て「苦労」やその「重要性」を学ぶ機会はほとんどありませんでしたが、今回のインターンシップでほんの少しかだけ経験することができました。また、私達が学んでいる学校での勉強は本当に基礎中の基礎で、社会に出てから学ぶことの方が何倍も多いという話を聞きました。インターンシップで体験できたことを将来に生かす為に、今後も勉強に努めていきたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を設けてくださった実習先の方々、学校の先生方、両親に改めて感謝しています。ありがとうございました。

中国でのインターンシップ コミュニケーション情報学科4年 猪原 雅代

私は中国遼寧省大連市にあるアルパイン大連研究開発センターと東軟信息学院にてインターンシップをさせていただきました。東軟信息学院では中国人学生や留学生と授業を受け、アルパイン大連研究開発センターでは実際に製品開発過程の一部を体験しました。

特に、東軟信息学院では中国人学生との交流が多く、中国人学生の勉強に対する意欲と行動力を感じることができました。例えば、低学年の学生は授業終了後、夜までクラス毎に教室で自習を行います。東軟信息学院は全寮制のため、学院内には勉強する施設や生活の場が非常に整えられていました。インターンシップ中は中国人学生と行動することが主でしたが、学生たちから積極的に話しかけられ、お互いに日本語と中国語、そして英語の

勉強になりました。

また、アルパイン大連研究開発センターでは

製品評価部に配属され、カーナビゲーションの評価テストを行いました。社員の方の説明を受けた後、自分で製品を操作するのですが、英語の仕様書には専門用語が頻出し、作業前の読み込みが大変でした。そのため、製品の最終評価テストであるランダムテストでは社員の方の倍以上の時間がかかりました。社内には英語、日本語の堪能な社員の方が多く、企業のグローバル化を目の当たりにしました。その他にも、各部門のエンジニアの方から製品開発の過程を教えていただき、製品の開発から量産までが行われる現場を見学させていただきました。

中国でのインターンシップは約3週間という短い期間でしたが、中国人学生との交流や実際の企業での仕事を通じて様々なことを学ぶことができました。今後は、インターンシップで学んだことを活かし、残りの高専生活をより良いものに行きたいと思います。



失敗から得られた成功 コミュニケーション情報学科4年 高橋 和希

「残念ながら、今回高橋様をインターンにお迎えすることは出来ません。」

友人たちが次々とインターンに向かい始めた8月上旬、私の元にはインターン選考不合格のメールが届きました。

私がインターン活動を行った「高専ベンチャー」という団体では、全国の高専生を集い、首都圏にあるベンチャー企業へのインターンを支援するというイベントを開催していました。「首都圏で働く企業の方々の実際の雰囲気を知りたい。」という理由から、このイベントへの参加を決めました。

しかし、企業面接に落ちてしまった私はひどく落胆していました。そんな私の元に届いたのが、「もし良ければ、高専ベンチャー自体のインターン活動にこないか。」というお誘いのメールでした。とりあえずインターンに参加しなければ、という思いから参加することを決めましたが、今考えればこの2通のメールのおかげで、夏季休業中の貴重な体験をすることが出来たのだと感じます。

インターンでの主な活動は、このイベントのサポートでした。イベントの経理や告知活動、Webサービスの

立案など、大きなイベントのサポートというのは決して簡単な作業ではありませんでした。

そんな私を支えてくれたのは、出会って間もない他の参加者や企業の方々でした。困っている時には互いの知識で補い、解決できないような問題には、仕事の合間を縫って企業の方々が親切にアドバイスしてくださいました。最終日にはお世話になった方々の前で、堂々と成果報告をすることができました。

これらの体験から得たことは、「繋がり」がいかに大事かということです。参加すること自体が目的であったインターンの全てが、かけがえのない人脈を形成してくれたのです。この経験の全てを運んできてくれた「2通のメール」に、「あの時はありがとうございました」という感謝を伝えたいと思いました。



海外インターンシップ報告

機械・電気システム工学専攻1年 柳沢 宏太郎

私は中国、深センにある富士ゼロックスシンセンにて3週間のインターンシップに望んだ。国内で生活、学習していく上で、海外の生産現場がどのようなになっているかということを知る機会は殆どない。そこで、海外に工場を作るメリット・デメリット等を直接自分の目で見て学習したいと考え、本インターンシップに参加した。

中国で行われている多人数での生産は製品の移り変わりに対応するのが容易で、オートメーション化とは違ったメリット・デメリットを持っていた。また人件費の変化など深く踏み込んだ現状についても学習することができた。

海外自体が初めてな上、企業での実習ということで最初は大きな不安を抱えていたが、仲間との協力を得て非常に充実した3週間だったと思う。目的は概ね達成され、外国語でのコミュニケーションを勉強するための強いモチベーションともなった。



機械・電気システム工学専攻1年 吉田 悠将



私は中国の上海市にある、オーエスジー株式会社の上海工場、奥斯机(上海)精密工具有限

公司にて実習を行いました。日本の企業の多くが海外進出を果たし、様々な国で経済活動を行っています。私はテレビやインターネットで、このような話を聞いていて、知識としての企業のグローバル化は知っているつもりで

した。しかし、実際に、海外の地で日本の企業が活動している姿を目の当たりにして、文化や歴史による考え方の違いを乗り越えて、日本人と中国人が共同で企業を運営していることがよくわかりました。また人生で初めての海外渡航ということで、たくさんの刺激を受けました。特に海外の方とのコミュニケーションは言葉が話せなくても、交流することができるということがよくわかりました。それと同時に、深いところまで話し合えないため、言葉の重要性を再認識しました。

3週間という短い間でしたが、人生の中でも濃密な3週間であり、本当に貴重な経験をさせていただきました。

海外インターンシップを通して

物質・環境システム工学専攻1年 大平 雅人

ただただ暑い。インターンシップ初日、空港を出て最初に脳裏をよぎったのがその言葉でした。今回私は、横河電機という制御システムを取り扱う企業のインターンシップに参加しました。研修場所は日本から遠く離れた中東。海外経験が全く無い私は、不安のみを抱いて中東の地を踏みました。最初の研修場所はバーレーンという奄美大島と同程度の面積しかない小さな島国で、まずここで制御システムの基本となる制御理論について学びました。第2の研修場所である



サウジアラビアでは、制御システムに関する研修に加え、企業訪問も行いました。比較対象が見つからないほどの巨大なプラントを見て、産油国が有する世界への影響力の大きさを改めて実感しました。最後の研修場所であるアラブ首長国連邦では、ドバイとア



ブダビに滞在しました。今までのイスラムの雰囲気とは全く異なる、開放的で自由な雰囲気に最初は困惑したものの、楽しい時間を過ごすことができました。

インターンシップを終えて、最も印象に残ったことは何かと聞かれても答えることはできません。全ての経験が印象深いものであり、生涯忘れることができない大切な思い出からです。グローバルに活躍できるエンジニアになりたい。そう感じずにはいられないほどの経験が、このインターンシップには詰まっていたのだと思います。

新常磐交通株式会社でのインターンシップを終えて

ビジネスコミュニケーション学専攻1年 佐藤 航太

私は9月19日から、5週間に亘って新常磐交通株式会社（以下、新常磐交通）でインターンシップを行ってきました。本科4年次のインターンシップでもお世話になっており、その時は仙台線の高速バスの調査・分析を行いました。

今回は調査対象が一般路線バスということで路線やダイヤ、停留所の数もまったく異なるため調査にも時間がかかりました。調査内容もただデータをまとめるだけではなく、実際にバスに乗って停留所に足を運んでの現地調査もあって、高速バスの調査の時とは違った経験をすることができました。また、今回は9月14日に福島市



で行われた「福島バスまつり」にも参加させていただきました。このイベントは福島県内のバス会社が9月20日のバスの日を記念して毎年開催しているもので、バスの展示やグッズの販売などを行っています。今年はインターン期間中に開催

されたので参加することができました。物販のお手伝いが主でしたが、なかなか見ることのできない珍しいバスを見たり、他のバス会社の人と交流したりなど貴重な経験をすることができました。

本社での最終調査報告が残っているため、研修が完全に終わったとは言えませんが、とても有意義な一か月を送ることができたと思います。

新常磐交通では、自分たちの調査・分析した結果が実際のバス業務に反映されており、過去の先輩方が行った調査結果が、我が校のスクールバス、福島線や仙台線の高速バスにも活かされています。このように直接業務に携われる企業はなかなかないと思いますし、研修のやる気にも繋がります。これからインターンシップに行くことになる後輩の方々には、もし公共交通やバスに興味があるのならば是非新常磐交通へ行くことをお勧めします。



◆インターンシップ協力企業等一覧

ご協力に感謝申し上げます

(種類別にアイウエオ順)

(企業)

(株)IHI、会津オリンパス(株)、アイリス・オーヤマ(株)、曙ブレーキ工業(株)、旭化成(株)、あすか製薬(株)、アステラスファーマテック(株)、(株)東コンサルタント、(株)ANAエアサービス福島、ANAラインメンテナンステクニクス(株)、天城東急リゾート ハーヴェストクラブ天城高原、アルパイン情報システム(株)、アルパインマニュファクチャリング(株)、(株)アルピオン、泉電設(株)、出光興産(株)、(株)いわき市民コミュニティ放送、(株)いわき土地建物、いわきワシントンホテル椿山荘、(株)エイテック、(株)ethicafe、荏原製作所(株)、MGCエレクトロテクノ(株)、NHK福島放送局、(株)NTT東日本一福島、大阪ガス(株)、(株)大宮教育センター、小川香料(株)、小名浜石油(株)、(株)オージャスト、オートリブ(株)、カゴメ(株)、鹿島ブックセンター、(株)加地和組、川研ファインケミカル(株)、木村ミルクプラント(株)、キッズガーデン、キヤノン(株)、(株)クラレ、(株)クレオ、クレハ建設(株)、(株)ケー・シー・エス東北支社、高専ベンチャー、(株)江東微生物研究所、(株)ココスジャパン、(株)小松製作所、さくらインターネット(株)、(有)サポートベッホテル ポチの家、(株)三伸製作所、塩野義製薬(株)、(株)jig.jp、JFEスチール(株)、JXエンジニアリング(株)、(株)JTBB東北、清水建設(株)、首都高速道路(株)、常磐開発(株)、常磐共同火力(株)勿来発電所、白河オリンパス(株)、新常磐交通(株)、スーパースポーツゼビオ、第一三共プロファーマ(株)、ダイキン工業(株)、平商事(株)ヤマニ書房、(株)平中央自動車学校、地質基礎工業(株)、中外製薬工業(株)、(株)長大、(株)ツムラ、(株)テレビユー福島、(株)TBSビジョン、電源開発(株)、(株)デーコム、東京ガス(株)、東京電力(株)、東燃ゼネラル石油(株)、東洋システム(株)、東洋水産(株)、トーアエイヨー(株)、西尾レントオール(株)、日栄地質測量設計(株)、日信

工業(株)、日新電機(株)、日立化成工業(株)、日本原燃(株)、(株)日本色材工業研究所、日本たばこ産業(株)、日本乳化剤工業(株)、(株)ネクスト情報はましん、ネスレ日本(株)、長谷川香料(株)、長谷川体育施設(株)、東日本高速道路(株)、東日本測量(株)、日々の新聞社、(株)日比谷アメニス、ファイザー・ファーマ(株)、(株)福島インフォメーションリサーチ&マネジメント、福島県商工信用組合、福浜大建設(株)、富士フィルムファインケミカルズ(株)、フタバコンサルタント(株)、双葉測量設計(株)、(株)プリティッシュビルズ、古河電池(株)、プレス工業(株)、ベッホテルたまの家、堀江工業(株)、(株)前川製作所、(株)牧野プライス製作所、(株)三越伊勢丹ビルマネジメント、三菱地所コミュニティ(株)、三菱電機ビルテクノサービス(株)、三菱重工業(株)、(株)ミック、NPO法人ミニシティ・プラス、リゾートトラスト(株)、和光純薬工業(株)、(株)渡辺組、アルパイン大連研究開発センター(中国)、オーエスジー(株)(中国)、富士ゼロックス(株)(中国)、明電舎(杭州)電気系統有限公司(中国)、横河中東アフリカ社(サウジアラビア、バーレーン王国)

(大学)

いわき明星大学、茨城大学、京都大学、静岡大学、東京工業大学、東京農工大学、東北大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、山形大学、横浜国立大学

ヴァランシエンヌ技術短期大学(フランス)、カレー・ブローニュ技術短期大学(フランス)、ジェームズクック大学(オーストラリア)、東軟信息学院(中国)、ペテュヌ技術短期大学(フランス)

(官公庁)

会津若松市役所、いわき市役所、薄磯区、大槌町役場、郡山市役所、(独)港湾空港技術研究所、国土交通省東北地方整備局、国土交通省北陸地方整備局、国土交通省北海道開発局、(公社)青年海外協力協会、田村市役所、須賀川市役所、(独)日本原子力研究開発機構、三春町役場、(財)ふくしま市町村建設支援機構

国際会議で何を学び、どう考えたか

コミュニケーション情報学科 2年 本 田 歩

私は、被災した東北で、子どもの権利を基盤とした復興支援活動を行っているsave the children Japanの活動に今年の2月から参加させていただいています。そして、ともに活動をしている、東北で被災した子どもの代表として、5月の19日～22日にジュネーブで開かれた防災グローバルプラットフォームに参加してきました。そこでの経験は、私が生涯忘れることのない大変貴重なものでした。

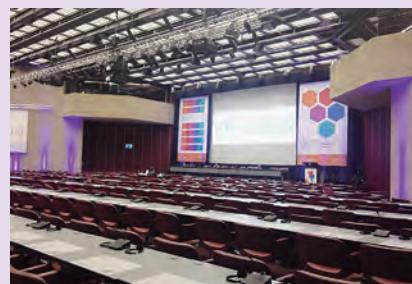
私は「子どもとDRR(防災、災害リスク削減)」という会議で発展途上国や先進国の政府関係者の前でスピーチをする機会をいただきました。その場で、被災した中高生と作成した、世界の大人に向けて訴えたいことをまとめた提言書について説明しました。更に、福島県に住むこどもの健康が守られるように、安全な環境を整えてほしいという要望も伝えました。

その中でも、チェルノブイリの事故時には、汚染の強い地域から教室ごと先生と子どもたちが、保養にくることができたサナトリウムが建設、運営された一方で、福島県では汚染が依然として残る校舎で、子どもたちは授業をうけざるをえない状況にある、と、日本では汚染地域に住むこどもへの配慮が少ないことを強調して述べてきました。



世界中の人々に、福島県のこどもの健康を守ってもらうために行動をしていただきたい!! とスピーチを締めくくると、会場からは割れんばかりの拍手が巻き起こり、私のスピーチに共感してくださった多くの方が、握手や記念写真を求めてきました。その時はとても感動し、胸が熱くなりました。自分の意見を誇りと自信をもって熱弁すれば、少なくとも誰かしらには、まっすぐに思いが届くことを実感した瞬間でもありました。私はこのような経験ができたことを誇りに思っています。そして、これからも己の出来ることを行っていこうと思っています。

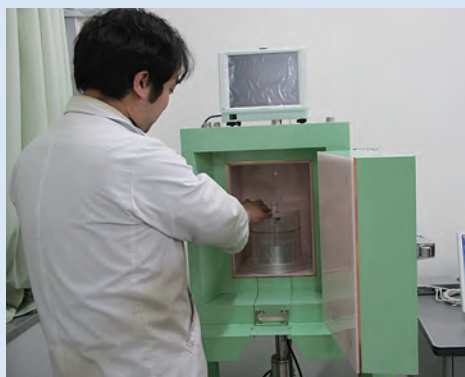
少しでも多くの方が、震災と原発事故に無関心にならないことを祈りつつ…。



市民向けの放射線測定

地域復興支援室では、2011年12月にNaIシンチレーション検出器、2012年8月にはゲルマニウム半導体検出器と各種放射線測定器を導入しており、公的機関等からの依頼分析をはじめ、企業等との共同研究および受託研究、復興等に関する研究活動の支援を行っております。

さらに、2013年7月からは、地域貢献活動の一環としてゲルマニウム半導体検出器を活用し、一般市民向け放射線測定を開始い



ゲルマニウム半導体検出器による測定の様子

たしました。測定の対象物は、飲料水(井戸水・沢水など)や土壌および食品(自家消費野菜)で、それぞれ少ない試料量で高感度の測定ができると好評を得て、現在まで約30件の測定を実施しております。

なお、放射線測定(一般向け・事業者向け等)は今後も継続していく予定であり、詳細は、本校地域復興支援室にお気軽にお問い合わせください。

〈地域復興支援室〉

e-mail: fukkou@fukushima-nct.ac.jp

TEL: 0246-46-0719 FAX: 0246-46-0713

地域復興支援室



受付の様子

平成25年度 一日体験入学を終えて

入学者対策専門部会長 松 本 匡 以

平成25年度の一日体験入学は、8月3日（土）、4日（日）の一日半で実施されました。例年通り、午前は主にいわき地区、午後はいわき地区外の中学校を対象に行いました。ここ5年間の参加者数は、平成21年度793人、22年度841人、23年度870人、24年度780人、今年度は817人と3年ぶりの800人台となり、真夏としては涼しい2日間だったこともあり、充実した一日体験入学となりました。

今年の各学科のデモ実験のテーマと内容等を紹介します。

機械工学科



「未来を創造する機械工学を知ろう」というテーマ名で、①学科紹介 ②身の回りにあるものでモノづくり ③市民に役立つモノづくり のデモ実験等が行われました。



電気工学科

「ふれてみよう 電気・電子・情報－電気工学科創作実習・人に役立つオリジナルなものづくり－」というテーマ名で、

①体験実験
②創作実習紹介
③学科・進路等紹介 のデモ実験等が行われました。



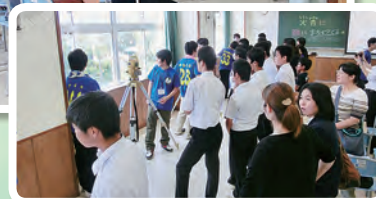
交流コーナー

休憩時間等を利用して、①学校紹介 ②入試相談 ③ミニ研究紹介 ④各種ロボコン出場機実演 ⑤休憩コーナーを設け、ロボットの実演の見学や入試に関する相談等ができるようにしました。

昨年に引き続き、学校紹介のパネル前で各クラブ・サークルの代表学生による課外活動の説明も大盛況でした。

建設環境工学科

「災害に強いまちを造る」というテーマ名で、①安心！安全！水道水 ②測量を体験してみよう のデモ実験等が行われました。



コミュニケーション情報学科



「Reach Your Dreams !」というテーマ名で、①学科紹介 ②学べばワカル 分かればカワル！ のデモ実験等が行われました。

物質工学科

「化学への招待－楽しい化学の実験室－」というテーマ名で、①無電解めっきの実験 ②生物から欲しい物質を取り出そう のデモ実験等が行われました。



第50回東北地区高専体育大会の結果(平成25年度)

一東北地区大会—

仙台大会

■陸上競技(男子)

学校対抗			第1位
100m	古和口 廉 (2K)	第1位	
200m	古和口 廉 (2K)	第1位	
〃	渡邊 隆也 (2C)	第5位	
〃	作山 巧次 (2E)	第7位	
400m	庄司 陽 (4K)	第1位	
〃	坂本 淳 (3M)	第5位	
800m	遠藤 直弥 (5E)	第2位	
〃	柳内 漢人 (4K)	第5位	
〃	鈴木 隆也 (1E)	第6位	
1500m	遠藤 直弥 (5E)	第1位	
〃	宮垣 佳和 (3M)	第2位	
〃	永山 聖也 (4M)	第6位	
5000m	宮垣 佳和 (3M)	第1位	
〃	佐藤 利紀 (2M)	第2位	
110mH	神部 光 (3K)	第1位	
〃	熊谷 純樹 (3K)	第8位	
3000mSC	小野 嘉己 (3K)	第1位	
〃	古川 裕基 (2K)	第3位	
〃	阿部 礼 (2M)	第4位	
4×100m R	(吉田・神部・庄司・古和口)	第1位	
4×400m R	(庄司・神部・吉田・古和口)	第1位	

走幅跳	吉田 将大 (5K)	第1位	
〃	鳥谷信太郎 (4K)	第4位	
〃	石井 太陽 (2C)	第5位	
三段跳	鳥谷信太郎 (4K)	第2位	
〃	吉田 将大 (5K)	第5位	
〃	石井 太陽 (2C)	第6位	
棒高跳	玉川竜太郎 (4C)	第2位	
〃	松本 武尊 (4M)	第3位	
円盤投	渡部 湜大 (3K)	第7位	
〃	小西 靖紘 (4C)	第8位	
やり投	渡邊 隆也 (2C)	第4位	
〃	佐藤 文啓 (3K)	第5位	
〃	渡部 湜大 (3K)	第6位	

■陸上競技(女子)

学校対抗			第5位
800m	木田亜梨沙 (1K)	第4位	
走高跳	馬目千維奈 (2K)	第3位	
円盤投	根本 恵 (3C)	第2位	
やり投	根本 恵 (3C)	第4位	
〃	佐藤 里佳 (2C)	第7位	

■バスケットボール(男子)

予選リーグ	福島66-78	仙台広瀬	予選敗退
	福島68-96	仙台名取	

■バスケットボール(女子)

リーグ戦	福島55-58	仙台名取	第3位
	福島47-100	八戸	

■卓球(男子)

団体戦			第1位
シングルス	矢内 智大 (2M)	第1位	
〃	中丸 智貴 (4E)	第2位	
〃	木田 貴文 (3C)	第3位	
〃	青木 勇斗 (3M)	第4位	
〃	富塚 俊太 (4K)	ベスト8	
〃	佐藤 瑞樹 (3C)	ベスト8	
〃	鈴木 孝幸 (3E)	ベスト16	
〃	大浦 昌也 (5E)	ベスト16	
ダブルス	中丸 智貴 (4E)		
〃	青木 勇斗 (4M)	第2位	
〃	木田 貴文 (3C)		
〃	矢内 智大 (2M)	第3位	

■卓球(女子)

シングルス	滑川 侑佳 (4I)	第1位	
〃	今野小百合 (4K)	第2位	
〃	大浦 悠 (2K)	第3位	
〃	齋藤佳菜子 (3I)	第4位	
ダブルス	滑川 侑佳 (4I)		
〃	今野小百合 (4K)	第1位	
〃	齋藤佳菜子 (3I)		
〃	大浦 悠 (2K)	第2位	

■剣道(男子)

団体			第5位
個人戦	小室 宏貴 (1K)	ベスト16	
	野口 翔矢 (3M)	2回戦敗退	
	大河原 拓 (1M)	2回戦敗退	

■剣道(女子)

個人戦	小澤 友子 (3K)	第2位	
	佐々木菜緒 (2K)	第4位	
	鈴木 遥 (3C)	1回戦敗退	

■テニス(男子)

団体戦			第1位
シングルス	蛭田 泰弘 (5E)	第2位	
〃	岡田 敦 (4E)	2回戦敗退	
〃	市川 希 (2K)	1回戦敗退	
ダブルス	高木 健志 (3I)		
〃	菊池 洋輝 (2M)	第1位	
〃	松崎 本夢 (4M)		
〃	松崎 祐樹 (5K)	2回戦敗退	

■テニス(女子)

団体戦			第2位
シングルス	高橋なるみ (2K)	第1位	
〃	薄井小百合 (2C)	1回戦敗退	
〃	嘉齊 落 (2I)	1回戦敗退	
ダブルス	高橋なるみ (2K)		
〃	嘉齊 落 (2I)	第3位	
〃	松田 歩華 (2C)		
〃	坂本 萌子 (4I)	1回戦敗退	

■バドミントン(男子)

団体戦			第3位
シングルス	高柴 貫爾 (5M)	第2位	
〃	佐藤 太一 (5I)	2回戦敗退	
〃	鈴木 啓人 (5M)	1回戦敗退	
〃	吉田 智弘 (5M)	1回戦敗退	
〃	吉田 靖秋 (5C)	1回戦敗退	
ダブルス	佐藤 太一 (5I)		
〃	鈴木 啓人 (5M)	3回戦敗退	
〃	高柴 貫爾 (5M)		
〃	吉田 靖秋 (5C)	2回戦敗退	
〃	貝沼秀一郎 (3E)		
〃	青木健一郎 (3K)	2回戦敗退	

■バドミントン(女子)

団体戦			第1位
シングルス	薄葉なつみ (3C)	第1位	
〃	村上あずさ (3I)	第4位	
〃	小松 愛 (3I)	2回戦敗退	
〃	瀧 彩文 (4I)	1回戦敗退	
〃	村上絵理奈 (4C)	1回戦敗退	
ダブルス	瀧 彩文 (4I)		
〃	薄葉なつみ (3C)	第1位	
〃	村上あずさ (3I)		
〃	小松 愛 (3I)	2回戦敗退	
〃	西山奈津美 (4I)		
〃	佐川 睦美 (2C)	2回戦敗退	

鶴岡大会

■バレーボール(男子)

予選リーグ	福島 2-0	一関	第3位
	福島 0-2	仙台名取	
	福島 2-0	仙台広瀬	
準決勝	福島 0-2	鶴岡	

■バレーボール(女子)

予選リーグ	福島 0-2	秋田	第3位
	福島 2-1	八戸	
準決勝	福島 0-2	鶴岡	

■ソフトテニス(男子)

団体戦			第1位
個人戦	大和田 嵩 (4K)		
〃	佐藤 伸耶 (4E)	第1位	
〃	金丸 允駿 (4E)		
〃	佐野 友啓 (3K)	ベスト8	
〃	柴田 直樹 (5E)		
〃	武藤 尚樹 (2K)	ベスト16	
〃	佐藤 喜治 (3M)		
〃	安瀬 登軌 (3E)	ベスト16	

■ソフトテニス(女子)

個人戦	本田 歩 (2I)		
〃	関端 史香 (2K)	予選敗退	
〃	西内 瑞生 (1K)		
〃	高橋 美優 (2I)	予選敗退	
〃	坂下和香奈 (1C)		
〃	石井 祐香 (1C)	予選敗退	

■柔道(男子)

団体戦			第5位
-----	--	--	-----

個人戦(60kg級)

小島 勇人 (5M)	第1位
------------	-----

個人戦(60kg級)

原 匡彦 (2K)	第3位
-----------	-----

個人戦(73kg級)

安島 優成 (4M)	1回戦敗退
------------	-------

個人戦(73kg級)

三浦 和輝 (4M)	1回戦敗退
------------	-------

個人戦(74kg級)

出口 直人 (1E)	第3位
------------	-----

■柔道(女子)

個人戦(48kg級)

猪原 雅代 (4I)	第1位
------------	-----

■硬式野球

1回戦	福島 4-7	鶴岡	1回戦敗退
-----	--------	----	-------

■サッカー

1回戦	福島 0-0	仙台広瀬	第1位
-----	--------	------	-----

	3 PK 0		
--	--------	--	--

準決勝	福島 4-0	仙台名取	
-----	--------	------	--

決勝戦	福島 3-1	鶴岡	
-----	--------	----	--

■水泳(男子)

学校対抗

100m自由形	佐藤 祐樹 (5M)	第1位	
---------	------------	-----	--

〃	齊藤 大明 (4I)	第2位	
---	------------	-----	--

〃	吉田 光義 (2M)	第6位	
---	------------	-----	--

200m自由形	齊藤 大明 (4I)	第3位	
---------	------------	-----	--

〃	吉田 光義 (2M)	第5位	
---	------------	-----	--

〃	猪狩 聖人 (4E)	第6位	
---	------------	-----	--

400m自由形	松田 裕樹 (3E)	第2位	
---------	------------	-----	--

〃	菊池 啓太 (1C)	第4位	
---	------------	-----	--

〃	山下 賢也 (4M)	第7位	
---	------------	-----	--

800m自由形	松田 裕樹 (3E)	第2位	
---------	------------	-----	--

〃	紺野 貴裕 (5C)	第5位	
---	------------	-----	--

〃	齊藤 圭紀 (1M)	第8位	
---	------------	-----	--

100m背泳ぎ	生方 歩高 (2M)	第1位	
---------	------------	-----	--

〃	仲村 誉 (1K)	第5位	
---	-----------	-----	--

200m背泳ぎ	生方 歩高 (2M)	第1位	
---------	------------	-----	--

〃	仲村 誉 (1K)	第6位	
---	-----------	-----	--

100m平泳ぎ	大友 一生 (3M)	第1位	
---------	------------	-----	--

〃	園子 智弘 (4E)	第3位	
---	------------	-----	--

〃	蒲生 博崇 (4K)	第8位	
---	------------	-----	--

200m平泳ぎ	大友 一生 (3M)	第1位	
---------	------------	-----	--

〃	蒲生 博崇 (4K)	第8位	
---	------------	-----	--

100mバタフライ	山下 秀 (3M)	第7位	
-----------	-----------	-----	--

200mバタフライ	菊池 啓太 (1C)	第4位	
-----------	------------	-----	--

〃	四倉 悠介 (2K)	第5位	
---	------------	-----	--

200m個人メドレー	佐藤 祐樹 (5M)	第1位	
------------	------------	-----	--

〃	園子 智弘 (4E)	第2位	
---	------------	-----	--

400mリレー	(生方・松田・大友・佐藤)	第1位	
---------	---------------	-----	--

800mリレー	(松田・吉田・佐藤・生方)	第1位	
---------	---------------	-----	--

400mメドレーリレー	(生方・大友・山下・佐藤)	第1位	
-------------	---------------	-----	--

■水泳(女子)

学校対抗

100m自由形	小野 晶子 (3C)	第1位	
---------	------------	-----	--

〃	若松 真純 (4I)	第3位	
---	------------	-----	--

200m自由形	鈴木 姫花 (5I)	第2位	
---------	------------	-----	--

50m背泳ぎ	小野 晶子 (3C)	第1位	
--------	------------	-----	--

100m背泳ぎ	若松 真純 (4I)	第1位	
---------	------------	-----	--

100m平泳ぎ	佐々木夏子 (3C)	第3位	
---------	------------	-----	--

〃	鈴木 姫花 (5I)	第4位	
---	------------	-----	--

200m平泳ぎ	佐々木夏子 (3C)	第2位	
---------	------------	-----	--

50mバタフライ	大橋 星花 (2I)	第2位	
----------	------------	-----	--

100mバタフライ	大橋 星花 (2I)	第2位	
-----------	------------	-----	--

200mリレー	(小野・若松・大橋・鈴木)	第1位	
---------	---------------	-----	--

400mリレー	(小野・若松・大橋・鈴木)	第1位	
---------	---------------	-----	--

200mメドレーリレー	(小野・佐々木・大橋・若松)	第1位	
-------------	----------------	-----	--

第48回全国高専体育大会の結果

■陸上競技

福島高専（いわき陸上競技場） （男子）			
学校対抗			第7位
100m	古和口 廉 (2K)		第2位
〃	作山 巧次 (2E)		予選敗退
200m	古和口 廉 (2K)		第3位
〃	作山 巧次 (2E)		予選敗退
400m	庄司 陽 (4K)		予選敗退
〃	坂本 淳 (3M)		予選敗退
800m	柳内 漢人 (4K)		予選敗退
〃	遠藤 直弥 (5E)		予選敗退
1500m	宮垣 佳和 (3M)		予選敗退
〃	遠藤 直弥 (5E)		予選敗退
5000m	佐藤 利紀 (2M)		第9位
〃	宮垣 佳和 (3M)		第14位
110mH	熊谷 純樹 (3K)		予選敗退
〃	神部 光 (3K)		棄権
4×100m R	(庄司・吉田・神部・古和口)		第8位
4×400m R	(庄司・神部・吉田・古和口)		第1位
走高跳	宮原遼太郎 (4M)		記録なし
走幅跳	吉田 将大 (5K)		第4位
〃	鳥谷信太郎 (4K)		第21位
三段跳	鳥谷信太郎 (4K)		第10位
〃	石井 太陽 (2C)		第21位
やり投	渡邊 隆也 (2C)		第23位
砲丸投	佐藤 文啓 (3K)		第23位
円盤投	渡部 滉大 (3K)		第22位

■ソフトテニス（男子）

仙台高専（仙台市泉総合運動場泉庭球場）			
団体戦			第2位
個人戦	大和田 嵩 (4K)		
	佐藤 伸耶 (4E)		2回戦敗退

■卓球

一関高専（一関市総合体育館） （男子）			
団体戦			第3位
シングルス	矢内 智大 (2M)		第5位

シングルス	中丸 智貴 (4E)		第5位
ダブルス	中丸 智貴 (4E)		
	青木 勇斗 (4M)		第3位
（女子）			
シングルス	今野小百合 (4K)		第2位
〃	滑川 侑佳 (4I)		第3位
ダブルス	滑川 侑佳 (5I)		
	今野小百合 (4K)		第3位
〃	齋藤佳菜子 (2I)		
	大浦 悠 (1K)		第3位

■柔道

仙台高専（宮城県武道館） （男子）			
個人戦（60kg級）			
	小島 勇人 (5M)		1回戦敗退
（女子）			
個人戦（48kg級）			
	猪原 雅代 (4I)		ベスト4

■剣道

鶴岡高専（小真木原総合体育館） （女子）			
個人戦	小澤 友子 (3K)		1回戦敗退

■サッカー

仙台高専（松島フットボールセンター）			
1回戦	福島 1－2 宇部		1回戦敗退

■テニス

福島高専（いわき市平テニスコート） （男子）			
団体戦			ベスト8
シングルス	蛭田 泰弘 (5E)		1回戦敗退
	市川 希 (2K)		1回戦敗退
ダブルス	松崎 本夢 (4M)		
	松崎 祐樹 (5K)		1回戦敗退
	高木 健志 (3I)		
	菊池 洋輝 (2M)		1回戦敗退
（女子）			
シングルス	高橋なるみ (2K)		第3位
	嘉齊 滯 (2I)		1回戦敗退
ダブルス	高橋なるみ (2K)		
	嘉齊 滯 (2I)		ベスト8

■バドミントン

仙台高専（仙台市体育館） （男子）			
シングルス	高柴 貫爾 (5M)		1回戦敗退
（女子）			
団体戦			1回戦敗退
シングルス	薄葉なつみ (3C)		ベスト8
ダブルス	瀧 彩文 (4I)		
	薄葉なつみ (3C)		ベスト4

■水泳

秋田高専（秋田県立総合プール） 学校対抗 （男子）			
100m自由形	佐藤 祐樹 (5M)		第3位
〃	齊藤 大明 (4I)		予選敗退
200m自由形	齊藤 大明 (4I)		予選敗退
800m自由形	松田 裕樹 (3E)		予選敗退
100m背泳ぎ	生方 歩高 (2M)		第4位
200m背泳ぎ	生方 歩高 (2M)		第3位
100m平泳ぎ	大友 一生 (3M)		第2位
〃	圓子 智弘 (4E)		予選敗退
200m平泳ぎ	大友 一生 (3M)		第1位
200mバタフライ			
	菊地 啓太 (1C)		予選敗退
200m個人メドレー			
	佐藤 祐樹 (5M)		第7位
〃	圓子 智弘 (4E)		予選敗退
400mメドレーリレー			
	(生方・大友・佐藤・圓子)		第2位
400mリレー			
	(齊藤・佐藤・生方・吉田)		第5位
（女子）			
100m自由形	小野 晶子 (3C)		第3位
50m背泳ぎ	小野 晶子 (3C)		予選敗退
50mバタフライ			
	大橋 星花 (2I)		予選敗退
200mリレー	(小野・若松・大橋・鈴木)		第2位

高等学校体育大会等の結果

◎第59回福島県高等学校体育大会 県大会

■陸上競技（男子）

100m	古和口 廉 (2K)		第4位 (東北大会出場)
200m	古和口 廉 (2K)		第6位 (東北大会出場)
400m	古和口 廉 (2K)		第4位 (東北大会出場)
400m H	神部 光 (3K)		第1位 (東北大会出場)
4×400m R			第5位 (東北大会出場)
	(坂本淳 (3M)・神部光 (3K)・作山巧次 (2E)・古和口廉 (2K))		

■ソフトテニス（男子）

団体戦			2回戦敗退
個人戦	橋本 健吾 (3M)		
	佐藤 優樹 (3K)		3回戦敗退
〃	佐野 友啓 (3K)		
〃	松本 恭彦 (2K)		2回戦敗退
〃	佐藤 喜治 (3M)		
〃	安瀬 登軌 (3E)		2回戦敗退
〃	武藤 尚樹 (2K)		
	赤津 利也 (2E)		2回戦敗退

■テニス（男子）

団体戦			2回戦敗退
ダブルス	高木 健志 (3I)		
	菊池 洋輝 (2M)		第4位
〃	市川 希 (2K)		
	宮嶋 豪 (2C)		ベスト16

■テニス（女子）

団体戦			1回戦敗退
ダブルス	高橋なるみ (2K)		
	嘉齊 滯 (2I)		ベスト16

■卓球（男子）

団体戦			第2位
シングルス	安齋 正樹 (2K)		第2位 (インターハイ・東北大会出場)
〃	矢内 智大 (2M)		第5位 (インターハイ・東北大会出場)
〃	木田 貴文 (3C)		4回戦敗退
シングルス	鈴木 孝幸 (3E)		4回戦敗退
〃	佐藤 瑞樹 (3C)		3回戦敗退
〃	鯨岡 康佑 (2E)		2回戦敗退
ダブルス	安齋 正樹 (2K)		
	矢内 智大 (2M)		第5位 (東北大会出場)
〃	木田 貴文 (3C)		
〃	鈴木 孝幸 (3E)		3回戦敗退
〃	佐藤 瑞樹 (3C)		
〃	渡邊 凌 (1M)		3回戦敗退
〃	鯨岡 康佑 (2E)		
	高信 京介 (2E)		2回戦敗退

■卓球（女子）

団体戦			第2位 (東北大会出場)
シングルス	大浦 悠 (2K)		第5位 (インターハイ・東北大会出場)

シングルス	齋藤佳菜子 (3I)		ベスト8 (東北大会出場)
〃	佐藤 泉 (1I)		3回戦敗退
〃	鈴木 結稀 (1K)		2回戦敗退
〃	猪狩 葉菜 (1I)		1回戦敗退
ダブルス	齋藤佳菜子 (3I)		
	大浦 悠 (2K)		第3位 (東北大会出場)
〃	佐藤 泉 (1I)		
	猪狩 葉菜 (1I)		3回戦敗退

■水泳（男子）

総合			第6位
100m自由形	吉田 光義 (2M)		予選敗退
200m自由形	吉田 光義 (2M)		予選敗退
〃	松田 裕樹 (3E)		予選敗退
400m自由形	松田 裕樹 (3E)		予選敗退
1500m自由形	齊藤 圭紀 (1M)		予選敗退
100m背泳ぎ	生方 歩高 (2M)		第3位 (東北大会出場)
200m背泳ぎ	仲村 誉 (1K)		予選敗退
〃	生方 歩高 (2M)		第3位 (東北大会出場)
100m平泳ぎ	大友 一生 (3M)		第2位 (東北大会出場)
200m平泳ぎ	蒲生 博崇 (1E)		予選敗退
〃	大友 一生 (3M)		第2位 (東北大会出場)
100mバタフライ			
	山下 秀 (3M)		予選敗退

200mバタフライ	菊地 啓太 (1C)	予選敗退
〃	四倉 悠介 (2K)	予選敗退
200m個人メドレー	菊地 啓太 (1C)	予選敗退
〃	四倉 悠介 (2K)	予選敗退
400mリレー		予選敗退
800mリレー		予選敗退
400mメドレーリレー		第7位
(東北大会出場)		

■水泳(女子)

総合		第19位
50m自由形	大橋 星花 (2I)	予選敗退
〃	小野 晶子 (3C)	第4位
(東北大会出場)		
200m平泳ぎ	佐々木夏子 (3C)	予選敗退
100mバタフライ	大橋 星花 (2I)	予選敗退
200m個人メドレー	小野 晶子 (3C)	第5位
(東北大会出場)		
200mバタフライ	大橋 星花 (2I)	予選敗退

■剣道(男子)

団体戦		2回戦敗退
1回戦	高専 2-1	福島南高校
2回戦	高専 0-2	磐城桜ヶ丘高校

■空手道(男子)

個人形	栗原 響生 (1M)	1回戦敗退
〃	長谷部有希 (1K)	ベスト8

■バドミントン(男子)

団体戦		2回戦敗退
ダブルス	貝沼秀一郎 (3E)	
	青木健一郎 (3K)	2回戦敗退
〃	星 祐太 (3K)	
	西田 啓吾 (3M)	2回戦敗退

■バドミントン(女子)

シングルス	薄葉なつみ (3C)	3回戦敗退
ダブルス	薄葉なつみ (3C)	
	佐川 睦実 (2C)	2回戦敗退

■弓道(男子)

男子個人戦	宮澤 竜治 (3M)	予選敗退
男子個人戦	計良 昌将 (3C)	準決勝進出

◎第44回東北陸上競技選手権大会

男子400mH	神部 光 (3K)	第5位入賞
---------	-----------	-------

◎第9回福島県シングルスソフトテニス選手権大会

男子シングルス	佐野 友啓 (3K)	予選敗退
〃	赤津 利也 (2E)	予選敗退
〃	松本 恭彦 (2K)	予選敗退
〃	武藤 尚樹 (2K)	予選敗退

◎ハイスchoolジャパンカップソフトテニス2013

福島県代表選考大会		
男子ダブルス	武藤 尚樹 (2K)	
	赤津 利也 (2E)	ベスト16
男子ダブルス	松本 恭彦 (2K)	
	佐野 友啓 (3K)	2回戦敗退
〃	佐藤 喜治 (3M)	
	安瀬 登軌 (3E)	1回戦敗退
女子ダブルス	関端 史果 (2K)	
	西内 瑞生 (2K)	1回戦敗退

◎第11回福島県高等学校春季ソフトテニス大会

男子団体戦		2回戦敗退
-------	--	-------

◎第92回全国高等学校サッカー選手権大会

福島県大会		
1次大会		2回戦敗退
1回戦	高専 1-0	あさか開成高校
2回戦	高専 1-1	磐城高校
(2) PK (3)		

◎第95回全国高等学校野球選手権記念福島大会

2回戦	高専 1-2	安積黎明高校
-----	--------	--------

◎第68回東北高等学校陸上競技選手権大会

男子100m	古和口 廉 (2K)	準決勝敗退
--------	------------	-------

男子200m	古和口 廉 (2K)	準決勝敗退
男子400m	古和口 廉 (2K)	準決勝敗退
男子400H	神部 光 (3K)	第7位
4×400m R		準決勝敗退
(古和口廉(2K)・神部光(3K)・鈴木陵太(1E)・熊谷純樹(3K))		

◎第67回東北高等学校卓球選手権大会

男子団体戦		1回戦敗退
男子シングルス		
	安齋 正樹 (2K)	ベスト16
〃	矢内 智大 (2M)	1回戦敗退
男子ダブルス	安齋 正樹 (2K)	
	矢内 智大 (2M)	1回戦敗退
女子団体戦		1回戦敗退
女子シングルス		
	大浦 悠 (2K)	1回戦敗退
〃	齋藤佳菜子 (3I)	1回戦敗退
女子ダブルス	齋藤佳菜子 (3I)	
	大浦 悠 (2K)	1回戦敗退

◎第61回東北高等学校水泳競技大会

男子100m背泳ぎ	生方 歩高 (2M)	予選敗退
男子200m背泳ぎ	生方 歩高 (2M)	予選敗退
男子100m平泳ぎ	大友 一生 (3M)	第3位
(全国大会出場)		
男子200m平泳ぎ	大友 一生 (2M)	第4位
(全国大会出場)		
男子400mメドレーリレー		予選敗退
女子50m自由形	小野 晶子 (3C)	予選敗退
女子200m個人メドレー	小野 晶子 (3C)	予選敗退

◎第30回福島県春季選抜ジュニアシングルステニス選手権大会

男子シングルス	高木 健志 (3I)	2回戦敗退
女子シングルス	高橋なるみ (2K)	3回戦敗退

◎第30回福島県春季ジュニアダブルステニス選手権大会

男子ダブルス	高木 健志 (3I)	
	菊地 洋輝 (2M)	第3位
(東北大会出場)		

〃	渡部 瞬 (3E)	
〃	松崎 篤司 (3C)	2回戦敗退
〃	市川 希 (2K)	
〃	宮嶋 豪 (2C)	1回戦敗退
〃	横田 敦大 (3M)	
	渡邊 健汰 (3C)	1回戦敗退
女子ダブルス	高橋なるみ (2K)	
	嘉齊 滯 (2I)	ベスト16

◎第35回東北ジュニアテニス選手権大会

男子ダブルス	高木 健志 (3I)	
	菊地 洋輝 (2M)	ベスト16

◎全国高等学校総合体育大会卓球競技大会

男子シングルス	矢内 智大 (2K)	1回戦敗退
〃	安齋 正樹 (2K)	1回戦敗退
女子シングルス	大浦 悠 (2K)	1回戦敗退

◎全国高等学校総合体育大会水泳競技大会

男子100m平泳ぎ	大友 一生 (3M)	予選敗退
男子200m平泳ぎ	大友 一生 (3M)	予選敗退

◎第66回福島県総合体育大会 県大会

■陸上競技(男子)

男子200m	古和口 廉 (2K)	第3位
男子400m	古和口 廉 (2K)	第1位
(全日本ユース選手権出場)		
男子400mH	神部 光 (3K)	第1位

(東北選手権大会出場)

4×100m R		第3位
(庄司 陽(4K)・吉田将大(5K)・神部光(3K)・古和口廉(2K))		

4×400m R		第1位
(庄司陽(4K)・神部光(3K)・吉田将大(5K)・古和口廉(2K))		

■テニス(男子)

【男子Ⅰ部】

シングルス	松崎 篤司 (3C)	2回戦敗退
〃	宮嶋 豪 (2C)	2回戦敗退
〃	斑目 柊哉 (2C)	2回戦敗退
ダブルス	渡部 瞬 (3E)	
	松崎 篤司 (3C)	3回戦敗退
〃	宮嶋 豪 (2C)	
〃	斑目 柊哉 (2C)	2回戦敗退
〃	磯上 亮太 (2E)	
〃	村上 健 (2I)	1回戦敗退
〃	廣渡 玲竜 (2M)	
〃	大竹 克也 (2M)	1回戦敗退
〃	横田 敦大 (3M)	
〃	渡邊 健汰 (3C)	1回戦敗退
〃	小野 郁朗 (3E)	
〃	柳井 一樹 (2M)	1回戦敗退

【男子Ⅱ部】

シングルス	鈴木 喬也 (1C)	第7位
ダブルス	鈴木 喬也 (1C)	
	根本 晃成 (1M)	第4位
〃	松崎 冬哉 (1M)	
〃	小西 優太 (1E)	3回戦敗退

【女子Ⅱ部】

シングルス	篠原なつみ (1I)	2回戦敗退
ダブルス	蛭田 愛未 (1C)	
	篠原なつみ (1I)	3回戦敗退
〃	見滝 千春 (1C)	
〃	四家亜希子 (1I)	1回戦敗退

■卓球(男子)

男子団体		第2位
男子個人戦	安齋 正樹 (2K)	ベスト16
〃	鯨岡 康佑 (2E)	2回戦敗退

■卓球(女子)

女子団体		第1位
(本校創立以来初)		
女子個人戦	佐藤 泉 (1I)	第5位
〃	猪狩 葉菜 (1I)	3回戦敗退
〃	鈴木 結稀 (1K)	2回戦敗退

■水泳(男子)

50m自由形	仲村 誉 (1K)	予選敗退
〃	生方 歩高 (2M)	予選敗退
〃	吉田 光義 (2M)	予選敗退
50m自由形	山下 秀 (3M)	予選敗退
〃	平木 義久 (4M)	予選敗退
〃	山下 賢也 (4M)	予選敗退
〃	横山 佳輝 (4M)	予選敗退
〃	園子 智弘 (4E)	予選敗退
〃	斉藤 大明 (4I)	予選敗退
〃	佐藤 祐樹 (5M)	予選敗退
100m自由形	吉田 光義 (2M)	第45位
〃	横山 佳輝 (4M)	第48位
200m自由形	齊藤 圭紀 (1M)	予選敗退
400m自由形	齊藤 圭紀 (1M)	第25位
50m背泳ぎ	関根 健恭 (4M)	予選敗退
100m背泳ぎ	仲村 誉 (1K)	第27位
200m背泳ぎ	生方 歩高 (2M)	第3位
50m背泳ぎ	安達 拓朗 (1E)	予選敗退
100m平泳ぎ	大友 一生 (3M)	第3位
200m平泳ぎ	大友 一生 (3M)	第1位
50mバタフライ		
	蒲生 博崇 (1E)	予選敗退
50mバタフライ	四倉 悠介 (2K)	予選敗退
	山下 秀 (3M)	第6位
〃	猪狩 聖人 (4E)	予選敗退
〃	紺野 貴裕 (5C)	予選敗退

100mバタフライ	菊地 啓太 (1C)	第23位
200m個人メドレー	菊地 啓太 (1C)	予選敗退
〃	四倉 悠介 (2K)	予選敗退
400mリレー		第13位
400mメドレーリレー		第14位
■水泳 (女子)		
50m自由形	若松 真純 (4I)	予選敗退
50m背泳ぎ	小野 晶子 (3I)	第3位
50m平泳ぎ	佐々木夏子 (3C)	予選敗退
50mバタフライ	大橋 星花 (2I)	第8位
400mリレー		第13位
■バドミントン (男子)		
ダブルス	星 祐太 (3K)	
〃	西田 圭吾 (3M)	2回戦敗退
〃	貝沼秀一郎 (3E)	
〃	青木健一郎 (3K)	1回戦敗退
■バドミントン (女子)		
シングルス	薄葉なつみ (3C)	ベスト16
◎平成25年度全日本卓球選手権大会 福島県大会		
ジュニア男子シングルス		
〃	安齋 正樹 (2K)	第1位 (全国大会出場)
〃	矢内 智大 (2M)	ベスト16
〃	鯨岡 康佑 (2E)	2回戦敗退
〃	高信 京介 (2E)	1回戦敗退
ジュニア女子シングルス		
〃	佐藤 泉 (1I)	第3位 (全国大会出場)
〃	大浦 悠 (2K)	ベスト8
〃	猪狩 葉菜 (1I)	ベスト16
〃	鈴木 結稀 (1K)	4回戦敗退
男子シングルス		
〃	中丸 智貴 (4E)	ベスト8
〃	青木 勇斗 (4M)	ベスト16
〃	安齋 正樹 (2K)	ベスト16
〃	木田 貴文 (3C)	3回戦敗退
〃	渡辺 大樹 (2C)	2回戦敗退
〃	鈴木 将士 (5M)	2回戦敗退
〃	矢内 智大 (2M)	2回戦敗退
〃	大浦 昌也 (5E)	1回戦敗退
〃	富塚 俊太 (4K)	1回戦敗退
〃	鈴木 孝幸 (3E)	1回戦敗退
男子ダブルス	佐藤 勇人 (1CK)	
〃	桑嶋 隆 (長岡技大・0B)	ベスト16

男子ダブルス	安齋 正樹 (2K)	
〃	矢内 智大 (2M)	ベスト16
〃	中丸 智貴 (4E)	
〃	青木 勇斗 (4M)	3回戦敗退
〃	渡辺 大樹 (2C)	
〃	永井 一喜 (TEAM SANKYO・0B)	2回戦敗退
〃	富塚 俊太 (4K)	
〃	鈴木 孝幸 (3E)	1回戦敗退
女子シングルス		
〃	滑川 侑佳 (4I)	ベスト16
〃	今野小百合 (4K)	2回戦敗退
〃	齋藤佳菜子 (3I)	2回戦敗退
〃	大浦 悠 (2K)	2回戦敗退
〃	佐藤 泉 (1I)	1回戦敗退
女子ダブルス	滑川 侑佳 (4I)	
〃	今野小百合 (4K)	ベスト8
〃	大浦 悠 (2K)	
〃	佐藤 泉 (1I)	ベスト16
〃	齋藤佳菜子 (3I)	
〃	猪狩 葉菜 (1I)	3回戦敗退
〃	原 郁乃 (2I)	
〃	鈴木 結稀 (1K)	1回戦敗退
混合ダブルス	中丸 智貴 (4E)	
〃	滑川 侑佳 (4I)	ベスト16
〃	青木 勇斗 (4M)	
〃	今野小百合 (4K)	3回戦敗退
〃	安齋 正樹 (2K)	3回戦敗退
〃	大浦 悠 (2K)	2回戦敗退
〃	矢内 智大 (2M)	
〃	佐藤 泉 (1I)	2回戦敗退
〃	富塚 俊太 (4K)	
〃	紺野千有希 (磐城第一)	1回戦敗退
〃	木田 貴文 (3C)	
〃	齋藤佳菜子 (3I)	1回戦敗退

◎第68回国民体育大会

■陸上競技

少年男子A400m	古和口 廉 (2K)	準決勝進出
-----------	------------	-------

■水泳

少年男子A200m		
平泳ぎ	大友 一生 (3M)	予選敗退

◎福島県高等学校新人体育大会 県大会

■陸上競技

男子100m	古和口 廉 (2K)	第4位
男子200m	古和口 廉 (2K)	第2位 (東北大会出場)

男子400m	古和口 廉 (2K)	第1位 (東北大会出場)
4×400m R		第3位 (渡辺隆也 (2C)、鈴木陵太 (1E)、作山巧次 (2E)、古和口廉 (2K))
三段跳	大平 健一 (2E)	第7位
〃	石井 太陽 (2C)	第8位

■テニス競技 (男子)

学校対抗		予選リーグ決勝敗退
シングルス	菊池 洋輝 (2M)	2回戦敗退
〃	宮嶋 豪 (2C)	2回戦敗退

■テニス競技 (女子)

学校対抗	予選リーグ2回戦敗退
シングルス	高橋なるみ (2K) 第7位

■水泳 (男子)

50m自由形	吉田 光義 (2M)	第12位
100m自由形	吉田 光義 (2M)	第18位
200m自由形	齊藤 圭紀 (1M)	第29位
400m自由形	齊藤 圭紀 (1M)	第18位
〃	菊地 啓太 (1C)	第12位
100m背泳ぎ	仲村 誉 (1K)	第18位
〃	生方 歩高 (2M)	第3位 (東北大会出場)
200m背泳ぎ	仲村 誉 (1K)	第10位
〃	生方 歩高 (2M)	第3位 (東北大会出場)
100m平泳ぎ	安達 拓朗 (1E)	第37位
100m平泳ぎ	蒲生 博崇 (1E)	第32位
200m平泳ぎ	安達 拓朗 (1E)	第25位
〃	蒲生 博崇 (1E)	第20位
200m個人メドレー		
〃	菊地 啓太 (1C)	第18位
〃	四倉 悠介 (2K)	第16位
400m個人メドレー		
〃	四倉 悠介 (2K)	第8位
400mリレー		第10位
400mメドレーリレー		第8位

■水泳 (女子)

100m自由形	大橋 星花 (2I)	第9位
100mバタフライ	大橋 星花 (2I)	第9位

◎東北高等学校新人陸上競技選手権大会

男子200m	古和口 廉 (2K)	第5位
男子400m	古和口 廉 (2K)	第3位
4×400m R		予選敗退 (渡辺隆也 (2C)、鈴木陵太 (1E)、石井太陽 (2C)、作山巧次 (2E))

各種大会等の結果

■写真部

- ・三春の桜等撮影会 実施
- ・ひたちなか海浜公園&笠間撮影会 実施
- ・ひたち国際大道芸撮影会 実施
- ・いわき文化復興祭撮影会 実施
- ・東北高専体育大会仙台・鶴岡大会撮影 実施
- ・マツダオールスターイベント撮影会 実施
- ・フラガールズ甲子園写真展 in アリオス (8/7-9/11)
- ・第3回フラガールズ甲子園撮影 実施
- ・第38回関東信越地区高専文化発表会 実施
- ・いわき街なかコンサート in TAiRA 2012写真展 in アリオス (8/7-11/4)

■吹奏楽部

- ・第51回福島県吹奏楽コンクール 銀賞

■将棋部

第20回全国高等専門学校将棋大会	
団体戦	佐波 克久 (3K)
	比佐 健人 (3M)
	馬目祥太郎 (3M)
個人戦	矢部 幸祐 (4E)
〃	加藤 将 (3M)
〃	須藤 裕星 (3E)
〃	中澤 貴史 (2M)

■茶華道部

- ・第38回関東信越地区高専文化発表会参加
- ・第34回いわき学校茶道連盟合同発表会 参加

■演劇部

- ・第38回関東信越地区高専文化発表会参加
- ・平成25年度いわき地区高等学校演劇発表会 参加
- ・第35回福島県高校演劇連盟夏季研修会 参加
- ・第56回いわき地区高等学校演劇コンクール 優秀賞第二席

■サイクリング部

- ・第17回サイクルフェスティバル2013in いわき 参加
- ・未来への道 1000km縦断リレー 参加

■ラグビー部

- ・第6回東北地区高専ラグビー講習会参加
- ・第2回福島県7人制ラグビー大会 参加

■エネルギー研究会

- ワールド・グリーン・チャレンジ
- ソーラーカー & F C カーラリー
- グリーンラリー 第1位
- ソーラーカー部門チャレンジクラス第2位
- 総合第8位

■ソフトウェア研究部

- ・パソコン甲子園2013プログラミング部門 参加
- ・第60回N H K杯全国高等学校放送コンテスト福島県大会いわき地区予選 参加

■分子生物学愛好会

- ・第25回知能ロボットコンテスト2013 チーム1：堀越くまさんFundamental (マシン名：ふみちゃん) (小林翠 (4C)、宗像蘭 (2C)、齊藤玲子 (2C)、笹川桃佳 (1C)、清水和恵 (1C))
- チャレンジコース決勝進出 第6位・真田 賞受賞
- チーム2：堀越くまさんNona (マシン名：Chibi3) (岩崎莉歩 (3C)、菅原佳奈 (3C)・西郷知樹 (3C))
- チャレンジコース決勝進出 第7位・メカトロで遊ぶ会賞受賞

■ストリートダンスサークル

- いわき街なかコンサート 参加
- タイヘイパフォーマンスライブ 参加



◆ 美術部

クラブ活動紹介

A relaxing time

美術部顧問 渡部美紀子
美術部コーチ 高杉 和久

美術部では、「デッサン」と「色彩構成」の2つを主な活動として行っています。

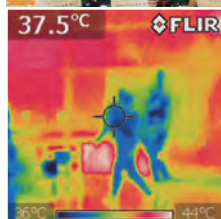
もしあなたが美術部に訪れたら、まずイーゼル前の椅子に腰かけ、真っ白なスケッチブックに自分の手や似顔絵、小さな石膏像を描くところから始まります。一人ひとりが持っている個性や能力はもちろん違いますから、一人ひとりが別のものを、それぞれのスピードで思い思いに描いていきます。対象をじっと観察し、無心に画面へと鉛筆を滑らせるうちに、瞬間に時間が過ぎてしまうことでしょう。絵を描くことはその人の心を豊かにしますが、それだけではなく、集中力を高めたり、「物事の本質をとらえる力」を鍛えたりすることができます。

色彩構成とは、定規やコンパス、アクリルガッシュなど限られた道具のみを使って、個人が持つ色彩感覚を表現することを目的としています。さまざまな色と形を組み合わせ、慎重にバランスを取り合いながら、一つのまとまりある空間を生み出していく。美術大学の入学試験によく出題され、またデザイン学科のトレーニングとしてもごく一般的に用いられています。「今日の服はどんなコーディネートにしよう」「この色は自分に合っている」など、そんな日常的なシチュエーションでもとても役立つ能力です。

なんとなく時間ができてしまって暇だ、溜まった疲れを癒したい、誰かに話を聞いて欲しいなど、どんなささいな理由でもいいのです。あなたが覗いてみようと思ったそのときに、美術部にふらりと立ち寄ってみてください。



高校体育大会いわき地区大会



夏場の卓球場のサーモグラフィー画像（2012年8月13日撮影）



東北地区高専体育大会

◆ 卓 球 部

クラブ活動紹介

福島高専卓球部、頑張っています!! 卓球部顧問 山田 貴浩

本校卓球部は、コーチの橋本彰夫先生の大変熱心なご指導のもと、今年度も各種大会で上位の成績を収めております。昨年度より、本校卓球部の第一期黄金時代に活躍された卒業生の柴田廣道氏（工業化学科6回生）も大会時にベンチコーチに入って下さったり、日頃の練習でご指導して下さいまして、選手たちのさらなるレベルアップに力を貸して下さいています。

今年度の主な戦績ですが、春には高校体育大会いわき地区大会で2年連続の6冠（学校対抗、個人シングルス・ダブルスで男女とも優勝）を達成、5月に地元いわきで行われた県大会では男女とも団体が準優勝を果たし、7月に北九州市で行われたインターハイに3名の選手が出場しました。また、7月に仙台で行われた東北地区高専体育大会でも団体・個人で優勝・準優勝などの成績を収め、全国大会に出場しました。東北地区高専大会と同時期に会津若松市で行われた福島県総合体育大会では、女子団体が悲願の初優勝を果たしました。さらに9月に須賀川で行われた福島県卓球選手権大会兼全日本卓球選手権福島県予選会では、ジュニア男子シングルスで優勝、同女子シングルスで第3位入賞を果たし、2名の学生が1月に東京で開催される全日本選手権本選への出場権を得ることができました。本校卓球部からインターハイへの出場は3年連続、全日本卓球選手権への出場は4年連続となります。※県大会以上の詳しい成績は、この学校だよりの「学生の活躍 クラブ活動等の結果」のコーナーをご覧ください。

これらの大会のほか、県内各地区から選抜された選手が出場する県強化リーグ大会やいわき市強化リーグ大会で、最上位リーグで優勝を果たし、いわき市や県内各地区の協会主催の大会で優勝など上位の成績を収めています。9月末に会津若松市で行われた「会津白虎杯」では、女子チームが団体優勝を果たしました。

卓球部の活動は、自分たちが大会に出場してプレーするだけではありません。いわき卓球協会や県の強化委員会などが主催する中学生以下の選手たちの強化練習会では、トレーニングコーチの役目で参加し、いわき市内・福島県内の小中学生の実力アップに貢献しています。また、いわき地区の小中高生強化リーグ大会などでは、4～5年生が大会運営のお手伝いをしてくれています。卓球部としてできる形での「地域交流」・「地域貢献」を実現しています。このような場面では、小中学生の前に立つわけですから、プレーだけでなく行動の面でも良いお手本を示せるよう、部員たちはしっかりした態度で取り組んでいます。

ところで、卓球部の練習は決して生易しいものではありません。練習場所である卓球場は、夏は非常に暑く、逆に冬は非常に寒い環境です。夏休みの練習中にサーモグラフィーで観測したところ、人間の体温が周囲の温度よりも低いという画像が得られました。しかしながら、そのような環境の中での練習に耐えられる体力・精神力を養うことにより、どのような環境の大会会場でも、最後まで粘り切ることができるようになっていくのです。

また、練習メニューでは、基礎練習や試合形式の練習もありますが、最も多く時間を割いているのが「パターン練習」です。これは選手各自が自分のプレーを分析し、どのようなパターンでラリーを展開させるか、あるいは弱点をどのように強化するかを考えて、練習のパートナーに球出しや返球の球種・コースなどを指定してボールを出してもらい、返球するという形の練習です。このパターン練習を積むことにより、実践において得意なパターンで確実に点数をとり、また苦手な球種やコースで来たボールを打ち返すことができるようになります。

そして、橋本先生のお人柄やご活躍による幅広い人脈のお蔭で、多くのゲストが練習に来て下さいます。本校の卒業生だけでなく、大学生や社会人で全国大会等の出場経験のある方や地元いわきで現在も現役でプレーを続けている方、他の高校の先生など、様々な方々が本校部員の練習の相手をして下さいます。試合形式練習の際には、試合後に各選手へアドバイスもいただいています。これは大変貴重なことです。また、本校の卒業生が「福島高専OBチーム」として各種大会に出場してくれるというのも、現役生には励みになり、ありがたいことです。上述の「会津白虎杯」では、OBが2チーム、OGが1チーム出場しました。このように多くの方々に支えていただいていることも、本校卓球部の大きな特徴の1つだと思います。

高専という学校は、他の強豪校と言われる私立高校などに比べれば圧倒的に不利な練習環境に置かれています。それでも部員たちは、課題やレポートや赤点60点のプレッシャーなどに追われながらも熱心に練習に取り組み、私立高校に負けにくいぐらいの素晴らしい成績を残しています。このひたむきな姿を見ると、部員たちには本当に頭が下がります。

今年の国体で福島県成年女子チームの監督を務められた橋本先生の本格的なご指導、部員の保護者の皆様のご理解とご支援、ゲストとして練習に来て下さる方々や柴田氏をはじめとする本校卒業生諸氏のご協力をいただき、こうした方々のご期待に応えるべく、福島高専卓球部はこれからも頑張り続けます。

新任教職員紹介



一般教科・保健体育科 木次谷 聡

一般教科・保健体育の木次谷聡と申します。大学・大学院を修了後、医療機関・障害児施設で勤務、その後高校の教員として10年間勤務し、平成25年4月より福島工業高等専門学校で採用されました。

これまで、いわき市には大学の合宿で夏に何度か訪れたことがあり、非常に過ごしやすかった思い出があります。

皆さんの学生生活が充実したものになるよう、授業や部活動等でお手伝いしていきたいと思います。スポーツトレーニングが専門ですので、部活動に関してもアドバイスできるかもしれません。どうぞよろしくお願いいたします。



一般教科・英語科 本 田 崇 洋

10月より一般教科（英語）に着任しました本田崇洋です。生まれは会津若松です。高校卒業後からずっと横浜に住んでおり、15年目の今年、地元福島に戻ってくることになりました。会津といわきとは風土が大分違いますが、それでも毎日懐かしい福島の言葉に癒されています。英語や教育を通じて、地元である福島の復興に携われることに喜びを感じています。ここで生きる若い人達のために、少しでも何かの役立てればと思っています。ギターが趣味でずっと続けています。気軽に話しかけてくださいね。よろしくお願いします。



一般教科・社会科 大 岩 慎太郎

10月から一般教科（社会）の教員として着任しました大岩慎太郎と申します。

私の専門分野は憲法で、中でも特に、選挙権について研究してきました。選挙権は参政権の中でも最も一般的なものであり、国民の最も重要な基本的権利であるとされています。その国民の最も重要な基本的権利とされる選挙権を行使できるようになる前の学生の皆さんに、講義を通じて、選挙権行使の際、また、一般常識とされるような法律知識を身につけていただくために努めていく所存でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。



機械工学科 寺 田 耕 輔

みなさん、こんにちは！ 本年度4月から機械工学科教員として福島高専に赴任しました。着任から半年経過し、教職員の方や多くの学生諸君の顔と名前も頭に入り、会話が弾むようになりました。私は32年ほど会社に勤務して、高専の教員になりました。8月に開催された、国立高専機構主催の新任教員研修に参加すると、私と同じような境遇の方が全国に多くいらっしゃり、お互いの問題を共有できてたいへん力づけられました。新米の教員の一人ですが、みなさんと共に力を合わせてがんばっていきたいです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



機械工学科 小 出 瑞 康

今年4月より機械工学科の教員として働くことになりました小出瑞康と申します。主に機械力学関連の講義と実習を担当しております。

先日、学生に「福島高専はどうですか」と聞かれました。私自身、工業高校、工学系大学出身なので、そのときは「だいたい予想したとおり」と答えました。しかし、あらためて考えてみると、私の予想以上に学生寮や部活などで学生が主体的に活動していると感じることがありました。今後は、授業・研究においてもみなさんが主体的に学習できるようサポートしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

新任教職員紹介



物質工学科 田 中 利 彦

民間企業に30年勤務したのを節目に本年4月に物質工学科に着任し、半年が経過いたしました。世の変化の速度はますます早まり、ウィキペディアでたいの事が学べる厳しい時代に教員となった事に後から気づき、少々の後悔を感じている今日この頃です。「人から人へしか伝えられぬものとは何か」、ということを経験として、学生さん達と共にその近似解を求めてゆきたいと考えております。



コミュニケーション情報学科 西 口 美津子

コミュニケーション情報学科に7月1日付で赴任しました西口と申します。経営学関連の科目を担当しております。以前は、民間企業（日本及び北米）や厚労省系の独立行政法人に勤務しておりました。生まれも育ちも神奈川県の小田原ですが、昔、「福島に友達に瓜二つ」と言われたことがあって、これも何かの縁かと思えます。余裕ができれば、高村智恵子の故郷の二本松、そして、友人の故郷会津へも足を伸ばしてみたいと思います。どうか、よろしくお願いいたします。



専攻科 樋 口 登

本年4月より勤務しております樋口です。復興人材育成事業に関わるべく採用されました。いわゆる団塊の世代の最後に連なる者で、千葉で生まれて以来、東京、埼玉、茨城と居を移し、今度ようやく関東から出ることができました。ここに来る前は産総研でエネルギー技術（超電導電力機器、SiCパワエレなど）の研究を行っておりました。今後のエネルギー供給を巡る情勢には非常に厳しいものがあるとの観点から、資源・環境問題をも含めたエネルギー工学発展への寄与を企図しております。任期は限られておりますが、よろしくお願い申し上げます。



総務課地域連携係長 奥 村 啓

10月1日付で筑波大学より総務課地域連携係に着任いたしました。生まれは神戸で、小・中・高校と茨城で育ち、大学時代を大阪で過ごした後、筑波大学に採用となり、茨城に戻りました。福島県いわき市は、海と山に囲まれて、坂が多いところが神戸に似ており、親しみや懐かしさを感じております。筑波大学では、ほぼ異動ごとに違う職種を行ってきて、今回も経験不足の研究支援関係ですが、精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



学生課 吉 田 瑠 美

茨城大学より赴任いたしました吉田瑠美です。2年間の出向期間を経て、再び福島高専に戻ることができ嬉しく思っております。赴任して3ヶ月ですが、高専での業務は大学よりも多岐にわたり、一人一人の役割がとても幅広く感じています。また、2年前や自分が学生だった頃と比較しても学校全体が大きく変化したように思えます。色々と戸惑うことが多いですが、これまでの経験も活かしつつ皆さんのお役に立てればと思っております。まだまだ不慣れな部分もあり、ご迷惑をおかけいたしますがよろしくお願いいたします。

平成25年度 ミニ研究発表会

教務主事補 齊 藤 充 弘

9月25日（水）に第一体育館を会場として、第8回となるミニ研究発表会を開催しました。

ミニ研究は、教員の設定したテーマに基づいて研究し、低学年のうちに「自分で調べる・考える・文章にまとめる・報告する・人前で発表する」という過程を経験することにより、個々の能力を高めることを目的として、2年生を対象に平成18年に導入されました。学生は、自分の所属する学科にとらわれずに、自身の興味や問題意識に基づいてテーマを選択し、前期を通して取り組みます。これにより、一般教科や他学科の専門分野に触れることを通して視野を広げ、柔軟な発想を持つことが期待されます。また、級友や友人以外の学生との共同作業を通してコミュニケーションや交流の輪が広がることが期待されます。さらに、校外での活動や人前に出ることを通して礼儀や常識を身につけることが期待されます。まさに、福島高専の特色ある教育の一つとなっています。

今年度は、43のテーマの下に210名の学生が取り組みました。時間割上では、木曜日と金曜日の7校時に開設されましたが、時間を延長して放課後遅くまで取り組む姿や休日に登校して取り組む姿を多くみることができました。また、今年も猛暑の夏でありましたが、夏休み期間中にも多くの学生が登校し、取り組む姿勢をみることができました。

このように、一生懸命に取り組んだ成果を披露する発表会は、盛況のうちに終了しました。ポスターによる発表が原則ですが、作品の展示やそれを動かすパフォーマンス、コンピューターなどを用いた視覚に訴えるものを効果的に使う発表が年々増加してきており、進化しています。そのため、発表会場の雰囲気にも明るく、活気ある彩りを添えているような印象を与えています。もちろん、内容についても年々進化しているテーマを多くみることができます。感想として聞くことのできる、「2年生で取り組む内容としては、すごい。」という驚嘆の声が、そのことを物語っています。

実験や調査にはまだ不慣れなところが多い2年生ではありますが、それをカバーする「真面目さ」と「素直さ」、「継続する姿勢」により、多くの学生が発表するに相応しい成果をあげることができたと思います。今後の学生生活において、今回の経験を必ず活かす場面があります。課題・レポートの作成、実験・演習、卒業研究をはじめ、毎日の学習を継続することに活かしていただきたいと思います。

発表会には、平日の開催にもかかわらず多くの保護者の皆様にご来場いただき、聴講していただきました。また、来年度取り組む1年生の姿も多くみることができました。さらに、多くの教職員の方々にも聴講と評価に参加していただきました。そして何より、根気強く熱心にご指導いただきましたミニ研究担当の先生方のお力添えにより、無事に発表会まで終了することができました。

皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



平成25年度

校内体育大会

学生主事補
磯上 慎二

平成25年9月27日、福島高専校内体育大会が行われました。昨年度は天候に恵まれませんでした。今年度は爽やかな秋晴れの下、グラウンドと体育館の両方で盛大に開催することができました。競技にはサッカー、バスケットボール、ソフトボールなどの球技系だけでなく、スポーツチャンバラ、大縄跳び、障害物競争など技能系の種目も含まれ全部で10種目でした。特にスポーツチャンバラは、今年度初めて行われたものです。経験者や女子に対するハンディキャップや特別ルールを適用することで、誰でも競技を楽しめるように工夫されていました。大会最後の目玉競技である学科対抗リレーでは、全学生がグラウンドに集結し大いに盛り上がりました。各種目の成績順位に応じて得点を加算したところ、クラス対抗では1年コミュニケーション情報学科、2年電気工学科、3年建設環境工学科、4年電気工学科、5年電気工学科が優勝し、学科対抗では電気工学科が総合優勝しました。

本大会の企画運営は、学生会の体育大会実行委員会（委員長：4年電気工学科 大和田遼介君）と各クラスの体育委員が中心となり、学業やクラブ活動の合間をみて早い時期から準備を進めてきました。閉会式では「無事に開催できたことに对学生のみなさんに感謝しています。運営上の細かい反省点は来年度にしっかり引き継ぎたい。」との委員長挨拶がありました。



第48回全国高専体育大会

〈陸上競技〉

全国大会を振り返って…「感謝」

陸上競技部顧問 根本 昌 樹



第48回全国高専体育大会陸上競技大会が、平成25年8月18日(日)～19日(月)の日程で、いわき陸上競技場を会場に各地区大会を勝ち抜いた538名の選手を迎え、熱い戦いを繰り広げた。東日本大震災による原発事故の影響がまだ払拭されていない中での開催で、選手達が気持ちよく試合に臨めるよう宿泊の手配やシャトルバスの運行等、献身的に働いて頂いた学生課職員の方々には心から感謝申し上げます。

最高気温が33℃を越える猛暑の中で、残念ながら大会記録の更新はなかったが、男子100m、200mの短距離2冠の藤原君(奈良高専)、同じく1500m、5000mの長距離2冠の穴井君(熊本八代)、女子100m、3年連続優勝の杉本さん(富山射水)そして3年連続総合優勝の近畿大学高専の活躍は見事であった。

ここ数年全国大会での活躍が見られなかった本校であったが、地元開催での活躍を目標に厳しい練習に耐え、大会の最終種目である男子4×400mRで優勝することが出来た。選手達の努力は勿論であるが、保護者をはじめ応援して頂いた全ての方々の力が後押しとなった結果であった。

最後に、大会運営でご協力頂いた陸上競技協会、多くの補助員を動員して頂いた高体連、そしてご苦勞をおかけした本校教職員・学生に改めて感謝申し上げます。



〈テニス競技〉

このいわきの地で全国大会を開催するということ

テニス部顧問 菊 地 卓 郎

8月28日(水)～30日(金)の3日間、いわき市平テニスコートにて全国高等専門学校テニス選手権大会を本校主管で行いました。テニス競技36年の歴史の中で本校主管は初めての事です。

この福島県いわき市において、2013年という年に全国から数百人もの高専生を招くことはいろいろな面での大変さがありました。しかし、ホスト校として「ホスピタリティ」をキーワードに教職員はもとより、本校のテニス部員・補助員といった学生が素晴らしい働きをしてくれました。福島高専生はこの地で前を向いて元気にがんばっているぞ、という姿を全国に示せたのではないかと思います。

「いい大会でした。」とテニス競技のベテラン先生から帰りに握手をしながら言っていただきました。主管として無事に日程を消化し、滞りなく大会を終了しただけではなく、学生と共にとても大きな何かを共有できた夏でした。

〈追記〉大会結果などは本校HPをご覧ください。



平成25年度 行 事 予 定 (後期)

11月

2日(土) 磐陽祭準備 磐陽祭前夜祭
3日(日) 磐陽祭 本祭
6日(水) 第3回TOEIC-IP試験(3年・専1年)
8日(金) ~ 10日(日)
全国高専デザインコンペティション
2013 in米子
(米子高専主催/米子コンベンションセンター)
14日(木) ~ 28日(木)
後期中間試験期間
24日(日) 全国高専ロボットコンテスト2013
(両国国技館)

12月

4日(水) 学生会役員選挙
7日(土) 専攻科社会人入試
11日(水) 寮大掃除
18日(水) 集会、教室整備
21日(土) 閉寮(10:00)
冬季休業開始(1月8日(水)まで)
23日(月) 吹奏楽定期演奏会
(いわき芸術文化交流館アリオス)
28日(土) 学校閉鎖期間(1月3日(金)まで)

2014年

1月

4日(土) ~ 9日(木)
全国高専体育大会ラグビー競技(神戸市)
8日(水) 開寮(13:00)
9日(木) 授業開始
水曜振替授業
10日(金) 月曜振替授業
14日(火) 学習到達度試験
(工学系4学科3年生対象)
基礎学力標準試験(数学)
(工学系4学科の1、2年生対象)
他学生は臨時休業

1月

15日(水) 専攻科特別研究中間発表会(1年)
18日(土) 推薦入試
25日(土) 卒業研究発表会(電気)
25日(土) ~ 26日(日)
全国高専英語プレゼンテーションコンテスト
(国立オリンピック記念青少年総合センター)
29日(水) 学生総会
専攻科特別研究最終発表会(2年)

2月

5日(水) 木曜振替授業
6日(木) ~ 13日(木)
後期末試験
16日(日) 学力入試
17日(月) 学生臨時休業
21日(金) 後期授業最終日
月曜振替授業
24日(月) ~ 27日(木) 補講期間
25日(火) 卒業研究発表会(機械)(コミ)
26日(水) ~ 27日(木)
卒業研究発表会(物質)(建設)
28日(金) 再試験期間(3月6日(木)まで)
寮送別会

3月

3日(月) 終業式
6日(木) 地域フォーラム
専攻科特別研究公開発表会(2年)
卒業証書授与式
20日(木) (いわき芸術文化交流館アリオス)
修了証書授与式
(いわき芸術文化交流館アリオス)
21日(金) 閉寮(10:00)

入 学 試 験 の 日 程

【専攻科】●社会人特別選抜

- ・願書受付
- ・学力検査と面接
- ・合格発表

11月25日(月) ~ 29日(金)

12月7日(土)

12月12日(木)

【本 科】●推薦による選抜

- ・推薦入学願書受付
- ・推薦入試
- ・合格内定通知発送

2014年

1月6日(月) ~ 8日(水)

1月18日(土)

1月23日(木)

●学力検査による選抜

- ・願書受付
- ・学力入試
- ・合格発表

1月31日(金) ~ 2月5日(水)

2月16日(日)

2月21日(金)

編 集 後 記

今回の収録記事には、「学生の海外インターンシップの報告」や「本校主管の全国高専体育大会陸上競技・テニス競技の報告」があります。これらは、学生の「文武両道の活躍」の紹介とともに、関係各位のご尽力の絶大さをうかがわせるものとなっていると思います。「学校だより」では今後とも、その時々々の教育の動向、年間行事の状況、人事異動の情報等に加え、こうしたニュース性の高い報道をタイムリーにお伝えしていきます。 広報委員長 根岸 嘉和